じゃらん とーりまかし

vol. 54
2018年12月号

心を動かす、
日本を元気にする
観光・レジャーの
プロデューサー
応援情報誌

地域と世界を進化させる
社会変容技法の科学
島根県海士町・宮崎県新富町

コクリ！メソッド2018



リタイアor現役？
団塊以前orバブル世代？
その多面性に迫る

最新シニア旅行者像

え?ここに泊まれるの?
駅舎、印刷工場、博物館…

“想定外”のコンセプト宿

他業界から学ぶマーケティング事例
Marketing Crossing

「結果にコミット」を端的に示した RIZAPのCMに込められた想いとは

価値と感動を生み出す人にインタビュー
マエストロの肖像

民謡歌手
伊藤多喜雄

From Local
世界に誇るまち・むらのしごと

岩手県 うるしびと

RECRUIT

心を動かす、
日本を元気にする
観光・レジャーのプロデューサー
応援情報誌

とーりまかし

vol. 54
2018年12月号

目次

地域と世界を進化させる
社会変容技法の科学
島根県海士町・宮崎県新富町
2 コクリ！メソッド2018

リタイアor現役？
団塊以前orバブル世代？
その多面性に迫る
16 最新シニア旅行者像

え？ここに泊まれるの？
駅舎、印刷工場、博物館…
24 〝想定外〟のコンセプト宿

連載
他業界から学ぶマーケティング事例
30 Marketing Crossing
「結果にコミット」を端的に示した
RIZAPのCMに込められた想いとは

価値と感動を生み出す人にインタビュー
32 「マエストロの肖像」
民謡歌手
伊藤多喜雄

From Local
34 世界に誇る まち・むらのしごと
うるしびと（岩手県）

とーりまかし [terima kasih]

インドネシア語で「ありがとう」の意。

日頃からお世話になっているクライアントのみなさまにありがとう、読者のみなさまにありがとう、そして私たちに知恵を提供してくれるすべてのみなさまにありがとう、という感謝の気持ちを込めて、この名前をつけました。ちなみに、じゃらん「jalan」もインドネシア語で、「道」「プロセス」の意味です。「jalan jalan」で、「散歩する」「ブラブラ出かける」「旅行する」などの意味になります。



「地域づくりの第五の方法」を研究している

日本では、さまざまな方法で地域づくりが行われている。比較的多いのは、次のようなパターンだろう。

①ご当地キャラクターのように、他の地域の成功事例を踏まえて横展開して地域を盛り上げる
②地域内の異端児や、地域外からやって来た「よそ者」がリードして地域を盛り上げる
③地域外の企業などとのコラボレーションによって地域を盛り上げる
④地域内対話によって、地域のキーパーソン同士のつながりをつくったり、彼らの主体性を高めたりして地域を盛り上げる（地域コ・クリエーション）

いずれの方法も有力で、どれが良くてどれが悪いとは一概に言えない。なお、以前のコクリ！プロジェクトは④を研究しており、その成果は「ジバ観（詳細は「とーりまかし」52号）」が継承している。

２０１６年末から始めた「コクリ！２・０」では、これらのすべてと異なる「地域づくりの第五の方法」を研究している。それは、「地域内×地域外」のメンバーで２～３日にわたって対話を行う場創りのメソッドだ。しかも、その場の参加者には、いったん「未分化」の状態を通過してもらった上で、「集合的なひらめき」を生み出すことにチャレンジしてもらう（詳しい説明は4～7ページに掲載）。

その手法によって生み出したいのは、「一人ひとりが自分なりの使命に従って、持続的・主体的にチャレンジし合い、その地域らしいクリエーションを起こしていく地域コミュニティ」である。そのメンバーは、地域の底に眠る願いや希望を「地域ビジョン」として共有しながら、地域らしさあふれるアイデアを生み出し、皆で実行するようになっていく。

他地域の成功事例をむやみに参考にせず、地域リーダーだけに頼らず、単なるコラボレーションとは一線を画す新たな地域づくりの手法を生み出すことで、地域づくりを一層豊かにしたい。それがコクリ！２・０の研究メンバーの想いだ。



地域コ・クリエーション研究
（旧・地域イノベーション研究）
第10弾

地域と世界を進化させる社会変容技法の科学

島根県海士町・宮崎県新富町

コクリ！メソッド2018

私たちじゃらんリサーチセンター（JRC）は、2011年から
「地域コ・クリエーション研究」（旧・地域イノベーション研究）を行ってきた。
現在は「コクリ！プロジェクト」と名前を変え、
さらに2016年末からは「コクリ！2・0」に進化を遂げている。
今回は、島根県海士町・宮崎県新富町の事例を示しながら、
その研究と方法論の現在地を紹介する。

イラスト＝武曽宏幸

コクリ！メソッド2018

理論編

「未分化」を通過することで「その地域らしい創造」が起こる

コクリ！2・0は、いったい何を目的にしており、何をどのように行っているのか。コクリ！2・0のあり方・行動指針を示す「コクリ！7ヶ条」をベースにして、その理論構造の全体像を説明する。

コクリ！プロジェクトの概要2018

2016年末から始めた「コクリ！2・0」研究を継続中

コクリ！プロジェクトの研究や活動は、「とーりまかし」32号・33号・38号・44号・49号で説明してきたが、改めて簡単にその歴史に触れる。

コクリ！プロジェクトは、2011年からの3年ほどで、地域の共創を促す「地域コ・クリエーション」を研究した後、次の3年ほどで、各地域や都市の多様なメンバーがお互いにつながって学び合うコクリ！キャンプ、コクリ！ラボなどの「全国コミュニティ」を醸成してきた。そして、2016年末からは、地域変容と社会変容を同時に起こす研究「コクリ！2・0」に入った（図1）。2018年も、コクリ！2・0研究を継続している。

なお、コクリ！2・0は、嘉村賢州さん（NPO法人 場とつながりラボhome's vi代表理事、東京工業大学特任准教授）、太田直樹さん（前総務大臣補佐官・New Stories代表）、橋本洋二郎さん（株式会社ToBeings代表取締役社長）、山崎繭加さん（華道家、ハーバードビジネスレビュー 特任編集委員）、太刀川英輔さん（NOSIGNER代表・慶應SDM特別招聘准教授）といったメンバーとともに進めている。

海士町・新富町などで5つの実証実験を行った

コクリ！2・0で行っていることは、大きく2つに分けられる。

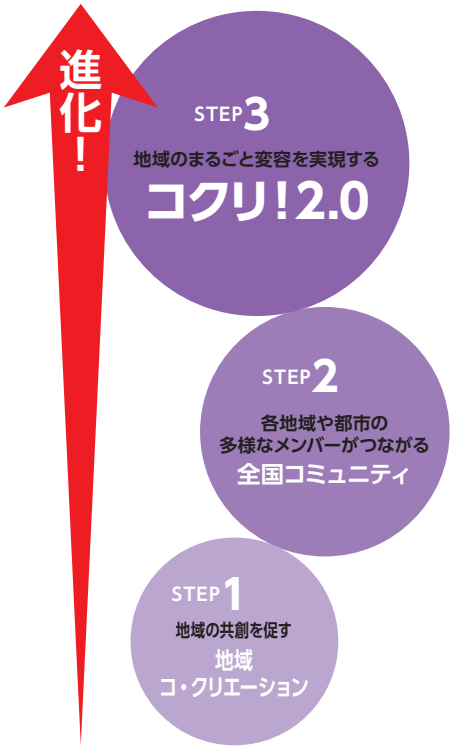
①研究：メンバーたちは毎週のように集まり、対話や勉強会などを通して、地域変容や社会変容をどう起こせばよいかを研究し、より良い仮説やプログラムを組み立てている（4～7ページ）。

②実証実験：こうした研究で生まれた仮説を検証する場として、2018年は5つの実証実験を行った。

- GI探究デイ（3月）
- コクリ！研究合宿（6月）
- GI探究ジャーニー in 新富町（7月）
- GI探究ジャーニー in 海士町（9月）
- コクリ！キャンプ2018（11月）

今回の記事では、「GI探究ジャーニー in 海士町」と「GI探究ジャーニー in 新富町」を詳しく紹介する（8～15ページ）。

図1 コクリ！プロジェクトの歴史



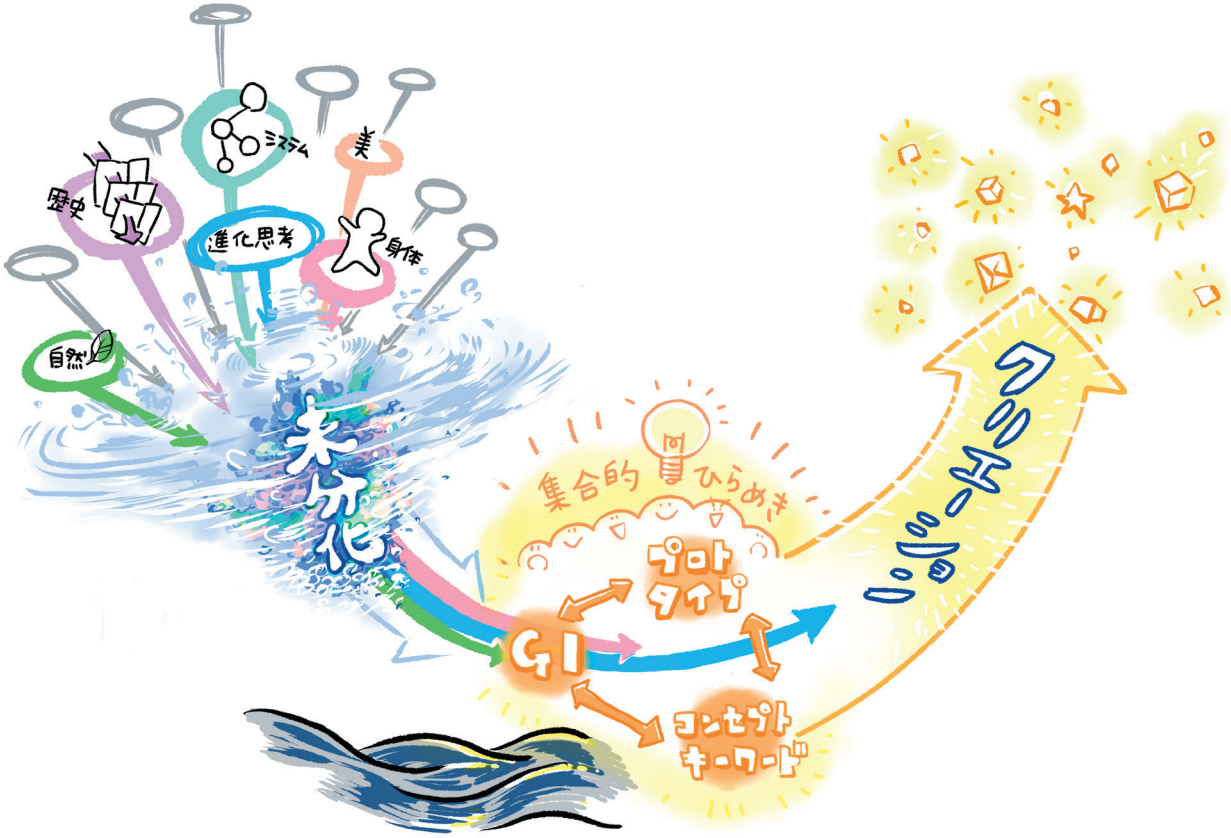
コクリ！プロジェクトは、地域コ・クリエーションから全国コミュニティに進化した後、コクリ！2.0になって、改めて「地域」に戻ってきた。しかし、コクリ！2.0は、地域コ・クリエーションと比較すると、大きく進化した点がいくつもある。

コクリ！プロジェクトの方法2018

最も重視しているのは「社会の進化」の創発だ

コクリ！2・0が目指すのは、次の3つを同時に実現することだ。そこに大きな特徴があると考えている。

図2 コクリ!メソッド2018（GIを探究するコ・クリエーションプロセス）



①「地域コミュニティ」の創造

実証実験を行う各地域に、自ら変わり続ける力を備えた「地域コミュニティ」を創ること

②「コクリ!文化」の醸成

コクリ!メンバー（コクリ!に積極的に出席するメンバー）を中心に、豊かな「コ・クリエーション文化」を備えたコミュニティを創ること

③「社会の進化」の創発

コクリ!の場の参加者全員で集合的なひらめきを生み出し、「社会の進化」を起こすこと

この中で、コクリ!2・0が最も重視しているのは「社会の進化」の創発だ。しかし、その根本は「地域コミュニティ」と「コクリ!文化」にあるため、この2つを創ることについても決して手を抜くことはない。

これらを実現する「コクリ!の場」は、通常2泊3日で行い、その大部分は対話の時間だ。コクリ!メンバーだけの場を開くこともあるが、コクリ!メンバーが各地域に赴き、「地域の方々＋コクリ!メンバー」で対話する場を創ることが多い。

なお、「コクリ!メンバー」は多彩で、地域行政・地域リーダー・NPO・官僚・企業・教育機関・ファシリテーター・クリエイターといった多様なバックボーンを持った方々が集まっている。彼らが、コクリ!文化を形成する中心的存在だ。

未分化を通過してから集合的なひらめきを生む

コクリ!の場のプログラムは、図2に示す理論・構造に基づいて設計されている。これが2018年時点での最新コクリ!メソッドだ。

「未分化」とは、iPS細胞などの「未分化細胞」から来ている言葉で、自分の心の中にあるさまざまな境界を取り外していくことを指す。具体的には、次の3つがある。

①個人の未分化：普段の役割を溶かし、何にでもなれる状態になること

②仲間との未分化：「あなたがわたしでわたしがあなたの状態（自他非分離）」になって、仲間たちの喜怒哀楽や苦しみなどを感じ取ること

③システムとの未分化：世界やシステムの一部として、世界の声、歴史や未来の声に耳を澄ますこと

コクリ!の場のステップ1は、参加者にこの3種類の未分化を通過してもらうことを目指している。

続くステップ2の目的は、未分化状態になった参加者たちが、対話の中から「集合的なひらめき」を生み出し、そのひらめきを「社会の進化」につなげていくことだ。コクリ2・

0では、この集合的なひらめきを「GI（ジェネレイティブ・インテンション）」という造語で呼んでいる。大きな社会の進化を起こすための「GIクリエーション」が、コクリ！の場の最も大きな目的である。

地域の皆さんがこうしたコクリ！の場を経験すると、参加者や地域には次のような変化が起こる。

コクリ！2・0の効果

□**一人ひとりが自分の使命を知る**
□**一歩を踏み出す勇気が湧いてくる**
□**安全安心なコミュニティができる**
□**ともに進化する同志ができる**
□**チャレンジ文化が生まれる**
□**地域やコミュニティに深い愛情を抱くようになる**
□**地域の底に眠る願いや希望をビジョンとして共有するようになる**
□**地域らしさあふれるアイデアを自ら生み出して皆で実行するようになる**

こうした効果が出るのは、参加者が未分化の状態を通過してから、クリエーションを行うからだ。いったん未分化になるからこそ、自分と地域の底に眠る感情・想いに気づき、「自分らしい使命」や「その地域らしさあふれるアイデア」を発見・創造・実現することができるのだ。

この全体構造は、コクリ！の参加者に大事にしてもらいたいあり方・行動指針を示す「コクリ！7ヶ条」の流れに沿っている。そこで、ここからはコクリ！7ヶ条をベースに、場の構造を詳しく説明していく。


コクリ！の場の大部分は対話の場

①自己探究
一、自分の「根っこ」とつながる

コクリ！7ヶ条の1つ目は、「自分の『根っこ』とつながる」だ。

「根っこ」とは、私たちの源であり、生まれてきた意味、自分の使命だ。私たちは、普段は自分の根っこを意識せずに生きている。そこで、コクリ！の場では、参加者に根っことつながってもらうために、最初に必ず、普段の役割をいったん横に置いて、心の深い部分にある願い・祈り・苦しみ・葛藤などと静かに向き合い、それをきっかけにして、自分の根っこを探る時間を用意している。

これは、分かりやすく言い換えれば、「自己探究」のチャンスである。これまで知らなかった自分の想いや、新たな自分の使命に気づくことが、この後の自己変容、信頼構築、GIクリエーションなどに大きな影響を与えうる。

②自己変容
二、恐れを超えて、未知に踏み出そう

コクリ！2・0が最も重視することの1つに、参加者一人ひとりの「自己変容」がある。なぜなら、個人が安全地帯を抜け出して、未知の自分にチャレンジし、「予想だにしない未来の自分」に出会っていくことが、地域変容・社会変容の大きな力となるからだ。「恐れを超えて、未知に踏み出そう」は、コクリ！が極めて大事にするメッセージだ。

私たちはよく、地域が変わる、社会が変わるというが、実際は「個人が変わる」のだ。地域変容・社会変容は、個人変容の積み重ねでしかありえない。一見遠回りに見えるかもしれないが、一人ひとりを変えていくことが、実は地域の「変わり続ける力」を高めることに直結する。

③信頼構築
三、仲間と「根っこ」でつながる

コクリ！の場では、自分の根っこの想いを仲間たちと共有する「ストーリーテリング」の時間を長めに取っている。コクリ！7ヶ条の3つ目、「仲間と『根っこ』でつながる」ことが、その主な目的だ。

言い換えれば、コクリ！2・0では、自己探究・自己変容に加えて、「信頼構築」も同時に行うのだ。そうすることで、参加者たちは単に仲良くなるだけでなく、2泊3日の短期間で、「ともに進化する同志」になっていく。

どのような地域も、キーパーソンの信頼構築が十分でないことが多い。キーパーソンがつながっていないために、地域を変える動きがうまくいかないという話もよく耳にする。コクリ！の場では、その信頼構築を互いに自己探究しながら行う。そうすると、強く深い絆が生まれるのだ。これが、地域変容の原動力になる。

また、自己変容をすると、地域で認められることが多い。「アイツは変わった・成長した」という言葉は、地域では明確なプラスだ。地域内の信頼構築が十分なら、たった一人のポジティブな変容が広く影響を及ぼすこともある。その意味でも、自己

変容と信頼構築を同時に進めることには大きな意味がある。

コクリ！の場の場合、それを地域外のコクリ！メンバーも加えて行うため、より面白く、刺激的で、複雑な相乗効果が生まれることが多い。

④思考以外の知恵の活用
四、「身体の声」は可能性の扉

コクリ！2・0のプログラムには、身体を使うワークが数多く入っている。多様な身体ワークによって、参加者は身体感覚を取り戻していく。コクリ！の場の大きな特徴だ。

なぜ身体ワークが多いかと言えば、「身体の声」、つまり身体から湧き出てくる喜び・楽しみ・幸せ・違和感・恐れ・不安・怒りといった感情に気づくことが、自分を変え、未知に踏み出していく上で極めて重要だからだ。まさに、「『身体の声』は可能性の扉」なのである。


コクリ！2.0では身体ワークをよく行う

⑤システムセンシング
五、自分を巡る大きな環に想いを馳せよう

コクリ！の場では、「自分を巡る大きな環に想いを馳せよう」という言葉のもと、先人が紡いできた歴史や遠い未来を感じる時間も多く設けている。例えば、インディアンの智慧から生まれた「7世代ワーク」は、7世代先の未来人になりきり、現代人と対話してもらうワークだ。

こうした時間を経て、参加者は自分が命のバトンをつないでいること、長い時間の流れの中で生きていること、生命・自然・経済・産業のすべてがつながり、互いに影響しあっていることなどに改めて気づく。根っこにつながるだけでなく、一方で自分や地域を包む大きなシステム全体を感じ取る（システムセンシングする）ことで、自分の使命が明確に見えてくることが多い。

⑥Gークリエーション
六、集合的無意識のなかに、次の時代のうねりがある
七、信じる世界を、体現しよう

自己探究・自己変容・信頼構築・思考以外の知恵の活用・システムセンシングを行ったら、「集合的なひらめき＝GI」を生み出す時間だ。

そのためにはまず、「集合的無意識のなかに、次の時代のうねりがある」ことを感じる必要がある。このうねりを感じるためには、多数の人々の無意識の願い・祈り・苦しみ・葛藤、つまり「時代の声なき声」にじっと耳を澄ますほかにない。なぜなら、そのうねりは、確かにそこにあるのだけれど、まだ言葉や概念にはなっていないからだ。

うねりを感じ取ったと思ったら、集合的なひらめきを形にするフェーズに入る。キーワードやコンセプトを創ったり、プロトタイピングで試してみたりするのだ。

コクリ！2・0では、ここで「進化思考」という手法を活用している。これは、生物の進化のプロセスを発想のためのメソッドに応用して、「人の創造性を高め、社会が変わるような新しい価値を生み出す人を増やそう」とする画期的な方法で、コクリ！2・0の中心メンバーの一人・太刀川英輔さんが新たに生み出したものだ。「系統的思考」「擬態的思考」「変形的思考」といった思考ツールを状況に応じて巧みに組み合わせ、価値あるアイデアを生み出していく。進化思考を上手に使えば、集合的なひらめきを形にすることができる。



一度の場で、これだけの「集合的なひらめき」が生まれる

コクリ！メソッド
2018

実践編

海士町と新富町の2地域でコクリ！2・0の実証実験を行った

2018年にコクリ！プロジェクトが行った5つの実証実験のうち、地域でコクリ！2・0の理論を試したのは、この2つの事例だ。その概要と流れをごく簡潔に紹介する。

GI探究ジャーニー in 島根県 海士町 あまちょう

場所	島根県隠岐郡海士町
日時	2018年9月14日～16日
参加者	コクリ！メンバー約30名、海士町メンバー約30名



島根県海士町で2回目のコクリ！の場
コクリ！メンバー約30名と海士町メンバー約30名が3日間にわたって対話した。



2018年9月、隠岐諸島の1つ・中ノ島の島根県海士町で、「GI探究ジャーニーin海士町（第2回コクリ！海士）」を開催した。2017年4月の「第1回コクリ！海士」に続く、海士町での2回目の場だ（第1回は「とーりまかし」49号に掲載）。町外から参加したコクリ！メンバー約30名と、海士町内のメンバー約30名が集まって対話を行った。

↓

1日目～2日目午前

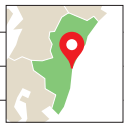
海士と仲間と自分の旅路を辿り、「今」に飛び込む

1日目は、コクリ！メンバーが昼に海士町に到着した後、午後に「ストーリーテリング」の時間を取った。5～6名が1チームとなって、仲間に自分の「根っこ」を語ることで、自分と仲間の「根っこ」につながり、恐れを超えて未知に踏み出すワークだ。2日目の午前中は、いくつかに分かれて海士町のフィールドワークを行った。コクリ！メンバーが海士の仲間の「今」に飛び込んで対話し、仲間の「根っこ」へのつながりを深めていった。

一、自分の「根っこ」とつながる
二、恐れを超えて、未知に踏み出そう
三、仲間と「根っこ」でつながる

GI探究ジャーニー in 宮崎県 新富町 しんとみちょう

場所	宮崎県児湯郡新富町
日時	2018年7月14日～16日
参加者	コクリ！メンバー約30名、新富町メンバー約20名



2017年の「こゆ財団」設立で盛り上がる宮崎県新富町でも
コクリ！の場を新たに開催した。



2018年7月、宮崎県新富町で「GI探究ジャーニーin新富町」を開催した。新富町は、2017年に地域商社「こゆ財団」が立ち上がり、盛り上がりを見せる町だ。こゆ財団は1粒1000円の国産ライチの販路開拓や、起業家育成塾などを次々に行って、全国から注目されている。その新富町メンバーにコクリ！メンバーが加わって対話を重ねた。

↓

1日目～2日目午前

新富町と出会う＋仲間と出会う＋進化のヒント探し

1日目は、オープニングゲームの水鉄砲合戦をした後、新富町のライチ農家（森緑園）、ピーマン農家（福山農園）、日本茶専門店（新緑園）を巡った。2日目の午前中は5～6名のチームで、新富町のフィールドワークを実施。午後は、コクリ！メンバーの1人・恵子さん（土屋恵子さん）のファシリテーションで、未知の自分を見つめたり、過去に見た夢から自分の未知の部分を理解したりする「未分化ワーク」を行って、自分や仲間の「根っこ」とつながり、未知に踏み出していく準備をした。

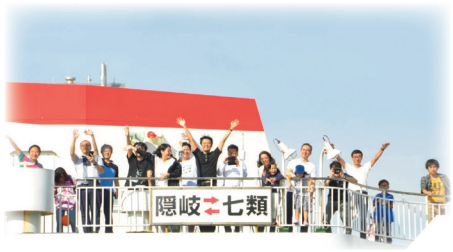
一、自分の「根っこ」とつながる
二、恐れを超えて、未知に踏み出そう
三、仲間と「根っこ」でつながる
四、「身体の声」は可能性の扉

コクリ！プロジェクトでは、基本的にニックネームで呼び合うことにしているため、記事でも「ニックネーム（本名）」という書き方にしている。









2日目午後
潮目を捉え、進化する

2日目の午後は、コクリ！メンバーの1人・ゆかさん（齊藤由香さん）のファシリテーションで、「身体ワーク」や「7世代ワーク」などを実施し、システムを感じ取った後、英輔さんの案内で各自が「進化思考ワーク」に取り組み、GIクリエーションを起こしていった。

四、「身体の声」は可能性の扉
五、自分を巡る大きな環に想いを馳せよう
六、集合的無意識のなかに、
**　次の時代のうねりがある**
七、信じる世界を、体現しよう

3日目
その先に向けて

3日目は、2日間を振り返りながら、お互いの今とこれからについて、チームメンバーとダイアログ。その後、プロアクションカフェ（具体的なアクションを生み出すための対話の場）を行い、それぞれがこの3日間で創造したアイデアやプロジェクトを応援しあった。

二、恐れを超えて、未知に踏み出そう
三、仲間と「根っこ」でつながる
七、信じる世界を、体現しよう











2日目夕方〜夜
どっぷり潜って浮上＋こゆ夜市

2日目の夕方は、「社会の進化を探究するワーク」や「進化の歴史に想いを馳せるワーク」を行って、参加者に世界システム全体を感じてもらうと同時に、GIクリエーションに入っていった。また、その夜は、こゆ財団が開催する「こゆ夜市」を楽しみ、仲間たちと親交を深めた。

五、自分を巡る大きな環に想いを馳せよう
六、集合的無意識のなかに、
**　次の時代のうねりがある**
七、信じる世界を、体現しよう





3日目
GI探究

3日目は、「GI探究」と題して、一人ひとりにGIを探究したり、自己変容の第一歩を踏み出したりしてもらった。

二、恐れを超えて、未知に踏み出そう
三、仲間と「根っこ」でつながる
七、信じる世界を、体現しよう







コクリ！メソッド
2018

海士町
対談

2回のコクリ！で外に頼れる人が海士町に増えた

海士町では、2017年4月と2018年9月にコクリ！の場を2回、開催した。その成果をどう感じているのか。海士町側の主催チームの2人（べっく・おかべちゃん）と2018年4月から海士町に住むコクリ！メンバーの英治さんにお話を伺った。

「地域づくりは庭づくりだ」と気づいた

――2回目のコクリ！の場を通して、3人には何か個人的な自己変容がありましたか？

英治　僕は1回目のコクリ！海士がきっかけで、2018年4月から海士町に妻と息子と「親子島留学」をしています。2回目にもそんな大きな自己変容が起きたら大変（笑）。今回は特に変わっていません。

もちろん、海士町に移住したことで気づいたことはいくつもあります。例えば、東京だと帰宅が夜の0時を回ることがよくありましたが、海士町では珍しいんです。そうすると、東京での生活がいかに異様だったかが分かってきます。ずっと東京にいたら、このことには気づけなかったでしょう。海士町に越してきたことで、自分のセンサーはさまざまな刺激を受けています。


英治さん（原田英治さん）

べっく　僕はこの2018年9月に、自分の経営する会社の社名を「風と土と」に変え、従来の地域づくり事業・人材育成事業に加えて、新たに出版事業の検討を始めました。これは、第1回のコクリ！海士で英治さんと出会って、海士町で「ないものはない大学出版会」を始めようと2人で盛り上がったところから生まれたアイデアです。その意味で、僕と僕の会社も、コクリ！の場から大きな変容を起こしました。今は、そのスタートラインに立ったところです。

おかべ　私は今回、「追求したい使命」を発見できました。それは「コミュニティ・ガーデニング」です。

きっかけは、今回のコクリ！の場の2日目に、私が2015年に海士町に来てすぐに植えたみかんの木を見に行ったことです。嬉しいことに、その木はみかんをつけていましたが、周囲には、同時期に植えられたのにまだ実が成っていない木もありました。それを見て、みかんの木は人に似ている、みかん畑はまちに似ていると感じたんです。

みかんの木と同じように、私たちも、花を咲かせたり、実を成らせたりするタイミングは人それぞれです。海士町の地域づくりをする私が、地域の皆さんに無理に花を咲かせることはできません。私ができるのは、一人ひとりが花を咲かすタイミング、実を成らすタイミングを見計らって、応援したり、組み合わせたりすることだけ。つまり、私はまちづくりというより、「庭づくり」をしているんだと気づいたんです。これからは地域という庭にできるだけ多くの花が咲き、実が成るように、焦らずに丁寧に、コミュニティ・ガーデナーを務めていきたいと思っています。

英治　僕が経営する英治出版の『自己革新』（ジョン・W・ガードナー）という本に、こんな一節があります。「永続的に革新する社会の適切なイメージは、庭園全体やバランスのとれた水槽などの閉じた生態系である。あるものは生まれつつあり、あるものは繁栄し、さらに他のものは死につつある。しかしシステムは生きている」


べっく（阿部裕志さん）

いるのだ」。おかべちゃんの「地域づくり＝ガーデニング」のイメージはピッタリだと思います。

10年で一番贅沢な食事を提供した「あまちゃん食堂」

――おかべちゃんが取り組んでいる地域づくり＝コミュニティ・ガーデニングの例を教えてください。

おかべ　例えば、今回の場の1日目の夜、コクリ！メンバーの皆さんをもてなした「あまちゃん食堂」は、組み合わせがうまくいった例だと思います。あまちゃん食堂は、第1回コクリ！海士のときに、海士町で学校給食をつくる小田川さん（小田川啓子さん）が中心となって生み出したアイデアで、海士の食材だけでつくった料理を提供する食堂を始めようというものです。

　小田川さんは、海士の子どもたちに海士の食材を中心とした給食を食べてもらいたい、できたら島民の皆さんにもそうしてもらいたいと思っていました。そこに、海士や日本の魚食文化を守りたいという想いをもった海士町漁協のふっじーさん（藤澤裕介さん）を組み合わせたことにより、このプロジェクトは加速的に進み、コクリ！メンバーの皆さんに海士町食材を使った料理を振る舞う一夜限りの「あまちゃん食堂」が実現したのです。

べっく　あの「あまちゃん食堂」の食事は、僕が海士町にいる10年間で一番贅沢でした。中心メンバーの皆さんは、「コクリ！だからここまでやった」と言っていましたね。

おかべ　その後、あまちゃん食堂には別のイベントからも声がかかっていて、彼らは現在、実際にお店を持つことも見据えながら、さらにプロジェクトを展開しようとしています。今回の場で、彼らはその大きな一歩を踏み出したんです。

海士町内のつながりも圧倒的に増えた

――周囲の変化で、何か気づいたことはありますか？

英治　2回開催した最も大きな効果は、海士町内のメンバーと町外のコクリ！メンバーとのつながりが、さらに強まったことだと思います。そのおかげで、海士町メンバーの活動量が高まる兆しが見えます。

べっく　その通りですね。僕が見る限り、2回のコクリ！のおかげで、海士町内に「外の誰かに頼れる人」が増えました。これは、新たな海士の強みになりつつあります。

　例えば、けいすけくん（大野佳祐さん・隠岐島前高校魅力化コーディネーター）は、直樹さん（太田直樹さん・前総務大臣補佐官）たちが立ち上げた新たな教育の実験場「土ラボ」に参加しています。そうしたことがいくつも出てきました。

おかべ　地域は、自分の弱みを見せにくく、何かしようとした時に誰かを頼るのも難しいところがあります。その点、コクリ！では、自分の弱さをさらけ出せますし、チャレンジする時に仲間の皆さんを頼ってよい雰囲気があります。こういう場は地域にとって貴重です。

べっく　あと、コクリ！の場を通して、海士町内のつながりも圧倒的に増えました。例えば、僕は澤さん（澤正輝さん・隠岐島前教育魅力化プロジェクト キャリア教育担当）と親しくなれました。海士町メンバーは、皆そういった出会いがあるはずです。

　もちろん、海士町メンバーの自己変容もたくさん起きていて、一例を



GI探究ジャーニーin海士町で開かれた「あまちゃん食堂」

変容ポイント①

一人ひとりが自分の使命を知る

コクリ！の場に何度か参加すると、多くの人が自分の使命を新たに見つけたり、自分の使命をより明確にしたりする。例えば、べっくは第1回コクリ！海士で、英治さんと「ないものはない出版会」を立ち上げるアイデアを考え、英治さんの協力のもと、1年後にそれを実行した。おかべちゃんは今回、「コミュニティ・ガーデニング」という自分の新たな使命を見つけた。コクリ！の場では、こうした自己探究・自己変容がいくつも起きている。

変容ポイント②

地域らしさあふれるアイデアを自ら生み出して皆で実行するようになる

あまちゃん食堂の事例で重要なのは、地域のメンバーが結びつき、主体的に行動を起こして、「地域らしさあふれるアイデア」を形にしたことだ。小さな一歩であっても、自分たちの手で前に進むことが、今後の大きな力になる。

その説明には、「トランザクティブ・メモリー」という概念を使うと早いと思います。入山章栄さんの『世界の経営学者はいま何を考えているのか』（英治出版）に出てくる言葉です。

トランザクティブ・メモリーとは、僕の理解では「組織やコミュニティの各メンバーが何を知っているか、何に詳しいか、何が得意なのか」を知っていることです。例えば、「あの魚のことなら、○○さんに聞けばいい」「コーヒーのことは△△さんが詳しい」と分かっていることです。経営学では、社員一人ひとりのトランザクティブ・メモリーの豊富な組織ほど、自分たちの組織の力をよく発揮できると考えられています。個人に根づいた専門知識を、組織が効果的に引き出すことができるからです。

面白いのは、「ある程度の交際期間を経たカップルはトランザクティブ・メモリーを自然と持つようになる」ことです。つまり、トランザクティブ・メモリーを高めるには、互いに深く知り合うことが重要なんです。コクリ！の場は、個人と個人が「根っこ」で深くつながることで、海士町コミュニティやコクリ！コミュニティのトランザクティブ・メモリーを高めていると思います。

べっく　僕はコクリ！コミュニティにいると安心できるんですが、それは「仲間と『根っこ』でつながっている」からですよね。

英治　僕もそうで、必ずしも長く一緒にいるわけではないのに、コクリ！メンバーといると安心します。

危機感ドリブンのまちづくりから脱却しつつある

べっく　それから、これは自分自身も含めての話ですが、最近の海士町は、地域リーダーが自己を犠牲にしながら進める地域づくり、あるいは危機感ドリブンのまちづくりから脱却できつつあると感じています。そういう地域づくり・まちづくりは、一時的にはうまくいくかもしれないけれど、中長期的には地域リーダーたちが疲弊して停滞しますし、まちの危機が遠ざかると、動きが弱まってしまうという欠点もあります。

その点、コクリ！の場からコミュニティを発展させると、地域づくりの持続性が高まります。一人ひとりが自分なりのビジョンを持ちながら、主体的に動くようになるからです。そうして、地域リーダーに頼らない地域、危機感ではなくビジョンドリブンのまちになっていくのです。

コクリ！の場がなかったら違う人生になっていた

――最後に、3人とも、コクリ！プロジェクトに割と長く関わってもらっていますが、振り返ってみての全体的な感想をお願いします。

英治　『企業創造力』（アラン・G・ロビンソン、サム・スターン　英治出版）は、企業創造力を高める6つの条件として、「意識のベクトルを合わせる」「自発的な行動を促す」「非公式な活動を認める」「セレンディピティを誘発する」「多様な刺激を生み出す」「社内コミュニケーションを活性化する」を挙げています。

コクリ！プロジェクトは、まさにこの6つを実践しています。つまり、コクリ！は、「コミュニティの創造力を高める方法」を磨き続けてきたとも言えるんです。それが地域にも挙げると、青さん（青山敦士さん）は、コクリ！がなかったら、マリンポートホテル海士の社長になっていなかったかもしれません。コクリ！は、そういった人生の岐路にいろいろと関わっています。

個人と個人が仲良くなると地域の力が高まる

べっく　海士町にとっては、英治さんが親子島留学をしてくださっている影響も、とても大きいです。海士町に住んでみてどうですか？

英治　改めて、「個人と個人がつながることの重要性」を感じています。「海士町は町外との交流が盛んだ」とよく言われますが、それは海士町の誰かと、町外の誰かのつながりの積み重ねでしかありません。同様に、海士町自体が、個人と個人のつながりの積み重ねでできています。最近、それがよく分かってきました。

変容ポイント③

一歩を踏み出す勇気が湧いてくる

実は、コクリ！で対話するなかで、人生の大きな決断をする人は少なくない。海士町に移住した英治さんやホテルの社長に就任した青山さんの他にも、コクリ！の場で、会社を辞めて起業することを決心したメンバー（麻生要一さん）などの例がいくつもある。コクリ！の場に参加すると、勇気が湧いてくるのだ。

変容ポイント④

持続性の高いコミュニティができ上がる

コクリ！2・0の地域づくりが他と大きく違うのは、コクリ！の場をきっかけにして、「持続性の高いコミュニティ」が立ち上がることだ。一人ひとりがビジョンドリブンで主体的に行動を起こすから、リーダーだけに頼る組織よりも持続性が高く、危機が去っても地域変容が続いていく。これは大きな強みだ。

有効だと、海士町で実証しつつあるのではないでしょうか。

べっく　僕の場合、2016年秋に軽井沢で体験したコクリ！の場が自己変容のポイントでした。そのとき、「海士町や会社のみんなと一緒に生きたい」という想いと「自分の好きなように生きたい」という想いに引き裂かれている自分に気づけたんです。あれがなかったら、きっと自分は燃え尽きていたと思います。

　また、こうして英治さんから経営者の可能性や、出版ビジネスを行う上で著者と深い関係を築く方法を間近で学べるとは、思ってもみませんでした。この出会いがなかったら、僕は経営者を辞め、会社を畳んでいたかもしれません。

　もちろん、コクリ！の場が自己変容のすべてというつもりはありません。日々の仕事や活動、あるいは他のさまざまな出会いも、僕を大きく変えてきました。でも、コクリ！がなかったらと思うと、正直ゾッとします。自分の人生はかなり違ったものになっていたでしょう。


おかべちゃん（岡部有美子さん）

おかべ　この2回のコクリ！の場は、そもそも私が「やりたい」と言い出して阿部に相談し、海士町メンバーの一人ひとりに会いに行って「参加していただけませんか？」と声をかけ、実現させたものです。決して簡単ではありませんでしたが、結果的には「圧倒的な当事者意識」を持ってやり遂げた、と胸を張って言えるプロジェクトになりました。

　今後、この経験が、自分の大きな看板になっていくのではないかという気がしています。今は、5年後、10年後に、海士町メンバーの皆さんが活躍する姿を想像するだけで楽しい。いろんなことが起こりそうです。

※インタビュー：三田愛（じゃらんリサーチセンター 研究員）

変容ポイント⑤

個人が変わることが地域を変える

海士町の地域づくりのリーダーであるべっくが、コクリ！の場などを通して何度も変容したことが、海士町に与えた影響は大きい。例えば、彼が自己犠牲型のリードを止めたことが、地域メンバーの自主性・主体性を確実に高めている。これは、「個人が変わることが地域を変える」ことの典型例だ。個人変容は、本当に地域変容・社会変容につながるのだ。



株式会社 風と土と
おかべちゃん（岡部有美子さん）

1981年、埼玉県熊谷市生まれ。中央大学総合政策学部卒業後、IT企業に勤務。2015年1月に、巡の環（現・風と土と）に入社し、海士町へ移住。海士町版地方創生総合戦略会議『明日の海士をつくる会』事務局などのまちづくり事業や海士町を舞台とした企業・自治体・大学研修のコーディネート事業を担当。隠岐民謡や祭りの笛などにもチャレンジ中。

英治出版株式会社
代表取締役
英治さん（原田英治さん）

1966年、埼玉県生まれ。慶應義塾大学卒業後、外資系コンサルティング会社を経て、1999年に英治出版を共同創業。創業時から「誰かの夢を応援すると、自分の夢が前進する」をモットーに、応援ビジネスとして出版業を行っている。第一カッター興業社外取締役、AFS日本協会評議員、アショカ・ジャパン アドバイザー。

株式会社 風と土と
代表取締役
べっく（阿部裕志さん）

1978年愛媛県生まれ。京都大学大学院にてチタン合金の研究で修士号を取得後、トヨタ自動車の生産技術エンジニアとして働くが、現代社会のあり方に疑問を抱き、2008年海士町に移住、起業。島の魅力を高める地域づくり事業、島外の企業や自治体、大学の研修を海士町で行う人材育成事業、島産品の販売や海士町の魅力を発信するメディア事業を行う。田んぼ、素潜り漁、神楽などローカルな活動を実践しつつ、イギリス・シューマッハカレッジやドラッカースクール・セルフマネジメントなどのエッセンスを活用した研修プログラムづくり、JICAと提携し海士町とブータンとの交流づくりなど、グローバルな視点も取り入れながら、持続可能な未来を切り拓いている。著書『僕たちは島で、未来を見ることにした』（木楽舎）

コクリ！メソッド
2018

新富町
対談

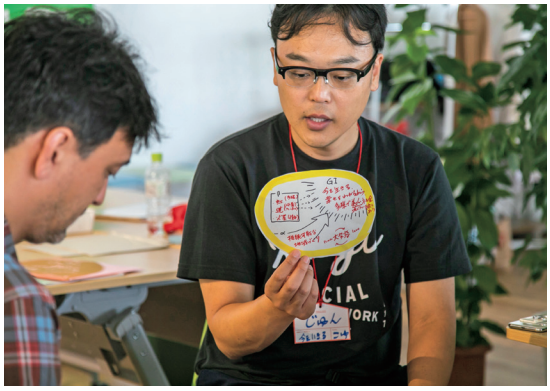
あの日、「一人で頑張る自分」を手放して、すべてが変わった

2018年7月、宮崎県新富町で「G-探究ジャーニー in 新富町」を新たに開催した。新富町側の主催者である「こゆ財団」の潤さん（齋藤潤一さん）、啓二さん（岡本啓二さん）にどのような場だったのか、どのような変化があったのかを伺った。

コクリ！メンバーと想いが近いことが分かって嬉しい

――開催から2カ月ほど経ちましたが、その後いかがですか？

潤　まずお伝えしたいのは、新富町の参加者の中に、コクリ！がきっかけで変わった方が何人もいることです。例えば、役場の研ちゃん（高山研二さん）は、役場の中で動きを起こそうとしていて、会うたびに「やりますよ！」と声をかけてくれますし、きゅうり農家の太一さん（猪俣太一さん）の動きも変わりました。森さん（森哲也さん）は、以前は「簡単にはいかないよ」が口癖でしたが、最近は「やってみよう」という言葉が増え、今はバニラ栽培に挑戦しています。


潤さん（齋藤潤一さん・こゆ財団 代表理事）

　それとは別に、たじさん（但馬武さん）、こみーさん（小宮山利恵子さん）などのコクリ！メンバーの方々とも、「一緒に何かやろう」という話で盛り上がっています。

　実は、開催1～2カ月前まで宿も開催場所も見つからず、僕自身「今回は止めよう！」と言ったこともありましたが、やってよかったです。

啓二　僕は、コクリ！の場は初めてでした。コクリ！メンバーは有名な方々ばかりでしたが、フラットに接することができたのが嬉しかった。



啓二さん（岡本啓二さん・こゆ財団 執行理事・写真中央）

　例えば、コクリ！メンバーの一人、安宅さん（安宅和人さん・ヤフー株式会社チーフストラテジーオフィサー）と僕ではまったくレベルが違うのですが、抱いている想いや向かう方向が近いことも分かりました。それが分かったのは、3日間も一緒にいられたからです。コクリ！以外ではできない経験だろうと思います。

仲間を信じて任せるようになった

――3日間で最も印象的だったのは、最後に潤さんが涙ぐんだ場面です。どういう想いがあったんですか？

潤　2017年4月にこゆ財団を立ち上げてから、ずっと大変でした。その間、自分が頑張って皆をリードしなくてはという気持ちが強く、無理やり明るく振る舞ってきました。

　大きな気づきがあったのは、「G-探究ジャーニー」の2日目です。その日、僕たちは未分化ワークの1つとして、「夢のワーク」を体験しました。自分がよく見る夢について身体で表現したり、考えたりするワークです。物騒な話ですが、僕はその頃、「誰かを殺す夢」をよく見ていました。夢占いでは、それは「自分を変えたい」という欲望の現れな

のだそうです。夢のワークを一緒にやったじゅんじゅん（黒木潤子さん）やふじむー（藤村聡さん）に助けてもらい、僕は「心の底では、一人で頑張る自分を手放したいと思っているんだ」と気づいたんです。そうしたら、すべてが変わりました。

もう1つ大きかったのは、その夜の「こゆ夜市」で、こゆ財団の仲間たちが頑張っていたことです。その姿を見ながら、「この仲間たちを信じたい」と心から思えた。それが最終日の涙につながりました。

その日から、僕は仲間を信じて任せるようになりました。今ではこゆ財団の経営も半ば手放しています。

――啓二さんは、潤さんの変化をどう感じていますか？

啓二　正直、今も厳しいことは厳しいんですが、言い方や接し方は、コクリ！を境に明らかに変わりました。例えば、「君を信じて待つ」という言葉が一気に増えました。その意味では、以前とまったく違います。

潤　今はただ、「このメンバーと楽しく過ごしたい」という想いが強いです。100年後も、このメンバーの子孫たちが気持ちよく暮らせる新富町を創りたい。そのためにこゆ財団と新富町を盛り上げていきます。


最後に思わず涙ぐむ潤さん

変容ポイント⑥

地域の底に眠る願いや希望をビジョンとして共有するようになる

潤さんに起きた自己変容で最も大きいのは、仲間を信じて任せるようになったこと以上に、地域の願いや希望に深く接し、それをビジョンとして共有し始めたことにあるのではないか。彼はおそらく、「こゆ夜市」で、メンバーやその子孫たちがずっと楽しく過ごす姿を夢に見たのだ。今後、そのビジョンがこゆ財団の原動力となるに違いない。このようにして、地域の底に眠る願いや希望をビジョンとして共有すると、地域コミュニティは強くなっていく。



自分の悩みがちっぽけなことがよく分かった

新富町役場
まちおこし政策課
高山研二さん

正直な話、参加するまでは腰が重かったんです。誘われるまま、半信半疑で参加しました。でも、行ってみたら面白くて驚きました。一番刺激を受けたのは、コクリ！メンバーの皆さんがどのように頑張っているか、どういったことで悩んでいるか、いろいろと話を聞けたことです。自分の視野の狭さや頭の固さ、自分の悩みがちっぽけなことが本当によく分かりました。多くの方が、この場に一度参加するだけで、世の中の見方や気持ちが一変すると思います。



新しい行動を起こしたいという気持ちになった

きゅうり農家
猪俣太一さん

僕は親の仕事を継いで、ずっと新富町できゅうり農家をしています。これからも変わることなくやっていきたいと思ってきました。でも、コクリ！メンバーの皆さんは、転職したり起業したり、ゼロスタートで大きなチャレンジをしている方ばかり。そうした話を聞いているうちに、自分も何か「農業＋α」で新しい行動を起こしたいという気持ちになりました。自分がこれから新しい一歩を踏み出せたとしたら、その何割かはコクリ！のおかげです。

とーりまかし的 考察

日本の中枢で活躍する方々が私たちに深く共感してくれた

7年前、コクリ！プロジェクトを始めたときには、関係資本・信頼資本・文化資本などの「目に見えない資本」の価値や、自分・仲間の「根っこ」とつながることの重要性などを深く理解し、共感していただける方は、正直に言って、決して多くなかった。

しかし、2018年11月に開催した「コクリ！キャンプ2018」では、多くの参加者から「自分や仲間の『根っこ』とつながることの大切さがよく分かった」といった声をいただいた。この中には、元大臣・企業経営者・地方自治体の首長・大学教授など、日本社会の中枢で活躍する方が多数含まれていた。彼らが、「目に見えない資本が大事だ」「未分化、『根っこ』につながること、身体性や集合的なひらめきが大切だ」という私たちのメッセージに、深く共感してくれたのだ。その意味で、日本は大きく変わってきている。そうした変化に合わせて、コクリ！プロジェクトの活動は、この7年で市民権を得ることができた。そのことを本当に嬉しく思う。

一方でその間、私の願いは基本的には変わっていない。私は、私たち全員に、生まれ持ったギフトがあると信じている。一人ひとりが、この時代、この場所に生まれた意味を実感し、使命を果たしながら生き切って、世界全体がハーモニーとコ・クリエーションを起こすようになったら、きっと地域や世界が進化する「集合的ひらめき」がいくつも出現すると信じている。

じゃらんリサーチセンターでさまざまな地域に出会ったことで、こうした願いや確信はより一層深まった。天の采配に深く感謝している。

今後も、世界全体がハーモニーとコ・クリエーションを起こす未来を目指しながら、皆さんと歩みを続けていきたい。



じゃらんリサーチセンター
研究員
三田 愛
人材育成、地域力開発を専門とし、地域変革支援を研究。米国CTI認定プロフェッショナル・コーチ

リタイア or 現役？　団塊以前 or バブル世代？

その多面性に迫る 最新シニア旅行者像

国内旅行のメイン顧客というイメージの強いシニア層。
しかしデータを紐解くと、そんなシニア旅行者も変化しつつあるのがわかる。
そもそもシニア旅行者とはどんな人たちで、どう変わってきているのだろうか？

※とくに断りのない場合、記事中のデータには『じゃらん宿泊旅行調査2018』のデータを使用

はじめに

旅行需要を支える「シニア」とは誰なのか？

観光バスを利用したツアー客？あるいはにぎやかな女性同士のグループ客？我々の抱くシニア旅行者のイメージは、本当に正しいのだろうか？シニア旅行者とはどんな人かを捉える難しさをまずは認識しておきたい。

リタイアor現役、健康or不健康 単純には語れないシニアの実態

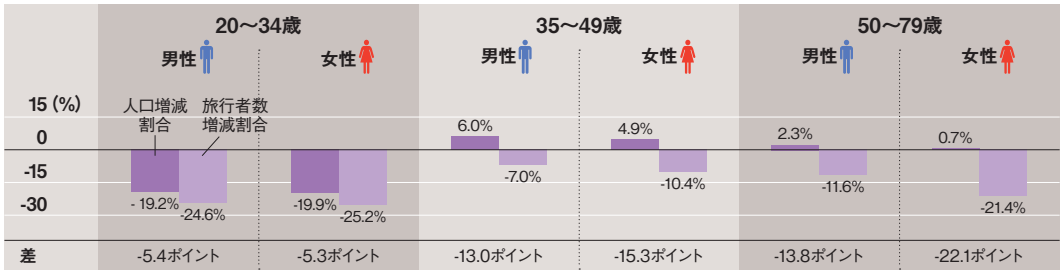
宿泊旅行の実施率は10年前と比較すると低下傾向にあるが、中でも低下が目立つのが50代以上のシニア層（図1）。人口増減割合と比較すると、とくにシニア女性旅行者の減少が目立つ（図2）。この数字は悲観すべき数字なのか、あるいは、打ち手次第で改善が望めるのだろうか？

そもそもシニア旅行者とはどんな人たちなのかを捉えるのは難しい。消費に意欲的とされる「アクティブシニア」という語も、具体的な定義は曖昧で、旅行行動とのつながりも不明確。『じゃらん宿泊旅行調査』では50歳以上をシニアとしているが、仕事をしている人とリタイアした人、健康な人とそうでない人など、年齢だけでは切り分けられない多くの要素があるのもこの年代の特徴だからだ。

図1　宿泊旅行実施率（性・年代別）



図2　人口の変化と旅行者数の変化 ※2007年度→2017年度



※人口増減割合については、2007年度は「H19年10月1日現在の人口推計」、2017年度は「H29年10月1日現在の人口推計」を使用
※差は四捨五入の前の数字で計算しているため、見た目と合わない場合がある

※通常は20～34歳（ヤング層）、35～49歳（ミドル層）、50～79歳（シニア層）の3つに区切って見ている。

年代特性

50代と60歳以上でも大きく異なる生活環境

シニア旅行者の姿を浮き彫りにするために、まずは10歳区切りで年代ごとに比較。現役世代である50代と、リタイア組が増える60代で異なる背景が浮かんだが、他年代と比べると「旅行に興味がある」という点は共通している。

障害は50代では家計と時間 60代では介護、健康、ペット

ここからは『じゃらん宿泊旅行調査』の最新データ（2018）を10歳単位で区切り、※シニア層の特徴を年代ごとに比較しながらより細かく見ていく。

まずシニア層が旅行に行く／行かないを決める背景にある事情を知るため、「旅行に行かなかった理由」に注目してみた（図3）。他年代と比べて50代、60歳以上で目立つのは「旅行に興味がなかった」割合の低さ。とくに男性では20代、30代の約半分となっていて、他年代と比較すると旅行に興味のない人が少ないことがわかる。一方で「家計の制約」を挙げた人の率は、男性では50代が最高。女性では40代をピークに低下するものの、50代ではまだ多くの人がこれを理由に挙げている。子供の進学による出費や役職定年による収入減など、まだまだ経済的な見通しが不安定な50代の姿が見て取れる。「休みが取れなかった」を挙げた率は、50代では40代とほぼ変わらず、60代になると大きく減る。図4の有職率と合わせて考えても、50代ではまだ定職に就き、休みの融通が利きにくい人が多いことの表れといえそうだ。なお、50代以上で増える理由が「介護」と「自分の健康」。親の介護が始まると同時に、人によっては自らの健康に不安が出てくるのがこの年代ということだろう。また男女とも60代

図3　宿泊旅行に行かなかった理由
（宿泊旅行非実施者、性年代別、抜粋、複数回答）

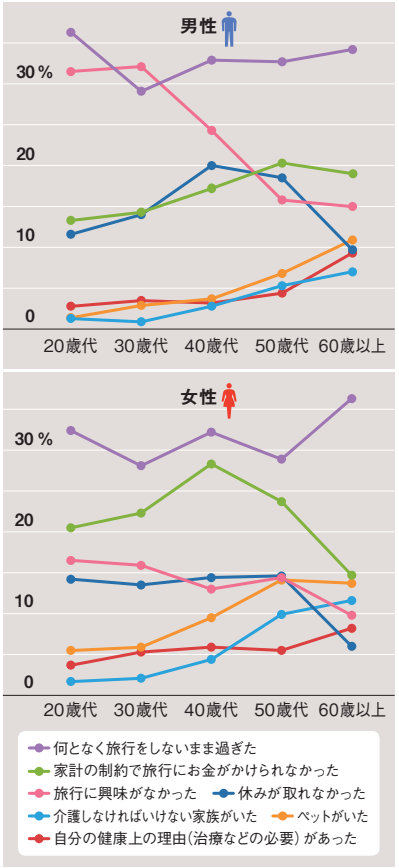


図4　有職率（全体、性年代別、単一回答）　単位：％

		有職（パート・アルバイト含む）	専業主婦（主夫）	無職	学生	その他
全体		65.7	18.6	9.6	2.2	3.9
男性	20歳代	63.8	11.6	21.0	0.5	3.6
	30歳代	86.3	8.4	0.1		4.8
	40歳代	91.3	5.0	0.1		3.6
	50歳代	90.7	5.8			3.4
	60歳以上	58.2	35.6			6.1
女性	20歳代	59.3	14.1	8.4	14.2	4.0
	30歳代	59.9	31.6	4.8	0.2	3.4
	40歳代	60.0	31.8	4.5		3.7
	50歳代	55.0	36.9	4.2	0.1	3.8
	60歳以上	28.4	58.4	10.5		2.6

※四捨五入した値のため、合計が100にならない場合がある

図5　宿泊時期（宿泊旅行実施者、性年代別、単一回答）　単位：％

	2017年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2018年 1月	2月	3月
17年度・全体	9.0	10.1	6.5	7.4	12.2	8.7	10.1	8.3	7.2	6.0	6.1	8.4
20歳代 男性	6.8	8.9	5.6	7.6	14.5	9.5	8.4	7.0	7.8	5.5	8.5	9.9
女性	7.3	9.6	5.5	7.2	12.4	9.5	8.6	7.1	7.6	6.7	7.8	10.7
30歳代 男性	7.8	9.5	5.7	7.9	14.0	8.3	9.1	7.9	8.9	7.5	6.1	7.3
女性	8.7	9.6	6.0	8.5	13.8	9.3	8.4	7.8	7.3	6.1	6.3	8.3
40歳代 男性	7.5	9.9	5.4	8.0	16.1	7.5	8.7	7.5	8.5	6.5	6.0	8.5
女性	8.3	9.2	4.9	8.2	17.4	7.5	8.5	7.5	7.6	5.5	5.7	9.8
50歳代 男性	8.3	10.0	5.9	7.2	12.9	8.6	10.6	8.2	7.0	6.7	6.7	7.8
女性	10.4	9.7	7.2	7.0	9.7	9.0	10.5	8.9	6.7	6.2	5.9	8.8
60歳以上 男性	10.4	11.9	7.7	6.8	8.7	9.4	13.3	9.8	5.6	5.1	4.6	6.6
女性	11.2	11.2	9.0	6.9	8.0	8.2	12.0	9.4	6.4	4.8	5.2	7.8

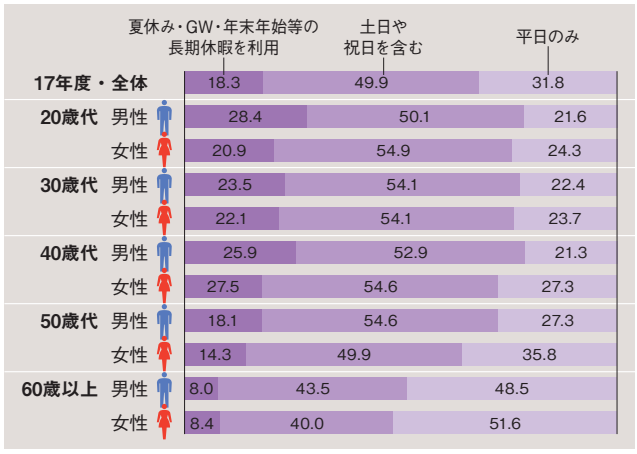
※四捨五入した値のため、合計が100にならない場合がある

で「ペット」を理由に挙げる人が増えることにも注目したい。長年飼ったペットを介護している家庭もこの年代には多いようだ。

日程の融通が利く60代は平日利用率も高い

宿泊時期（図5）については、夏休みや年末年始など繁忙期の旅行が50代から減り始め、60歳以上になると4月や10月など気候の良い季節の旅行が増える。会社や子供の学校の休暇に合わせる必要がなくなるためと考えられそうだ。旅行日（図6）で60代の平日利用率が高いのも同じ理由とみられる。

図6　旅行日（宿泊旅行実施者、性年代別、単一回答）　単位：%



※四捨五入した値のため、合計が100にならない場合がある

変化

10年前と変わってきたのはどの層？変化の原因と傾向を探る

旅館からビジネスホテルへ、「友人との旅行」の人気低下……10年前との比較に見る、旅行への考え方や求めるものの変化は、シニア旅行者の「世代交代」を示唆している。

5060代以上女性実施率が大幅減 5060代の実施率はそもそも低い

ここからは『じゃらん宿泊旅行調査』の最新のデータと過去のデータをそれぞれ10歳区切りで集計、比較しながら、シニア層の変化について見てみよう。

宿泊旅行の実施率は図2（P16）で示したように、シニア全体としては低下傾向。しかし2018年と2011年のデータを比較すると、50代男性だけは大きく伸びているのがわかる（表1）。逆に最も低下しているのが60歳以上の女性だが、60歳以上男性や50代女性も他年代と比べると大幅減。こうした傾向の理由については、P21～のインタビューでも話題に上ったので参考にしていただきたい。なお、同行者（図7）を見ると50代男性で大きくシェアを伸ばしているのがひとり旅。単身者世帯増によるひとり旅増が実施率を押し上げていると言えそうだが、一方でそれでも50代男性の旅行実施率は最低に近いことも踏まえておきたい。10歳単位で比較すると、全体に実施率が最も低いのは40代で、50代はその延長にある印象。ともに旅行に行かない理由に「家計の制約」を挙げる人が最も多い年代でもあり、経済的な事情が旅行の実施に大きく影響していそうだ。

シニアの旅館離れが進行 人気の自然観賞も今後は減少？

次に宿泊施設の変化を見てみよう（図8）。60歳以上に注目すると、2008年調査では他年代と大きく構成が違ったが、今はかなり近づきつつある。ポイントはビジネスホテルと旅館。ビジネスホテル利用は他年代と比べると少ないとはいえ、60代以上でも着実にシェアを伸ばしている。50代男性では、10ポイントもの大幅な伸びとなっており、ここでもひとり旅増の影響がうかがえる。一方で10年前の60歳以上ではシェア最大だった旅館が大きくダウンした。

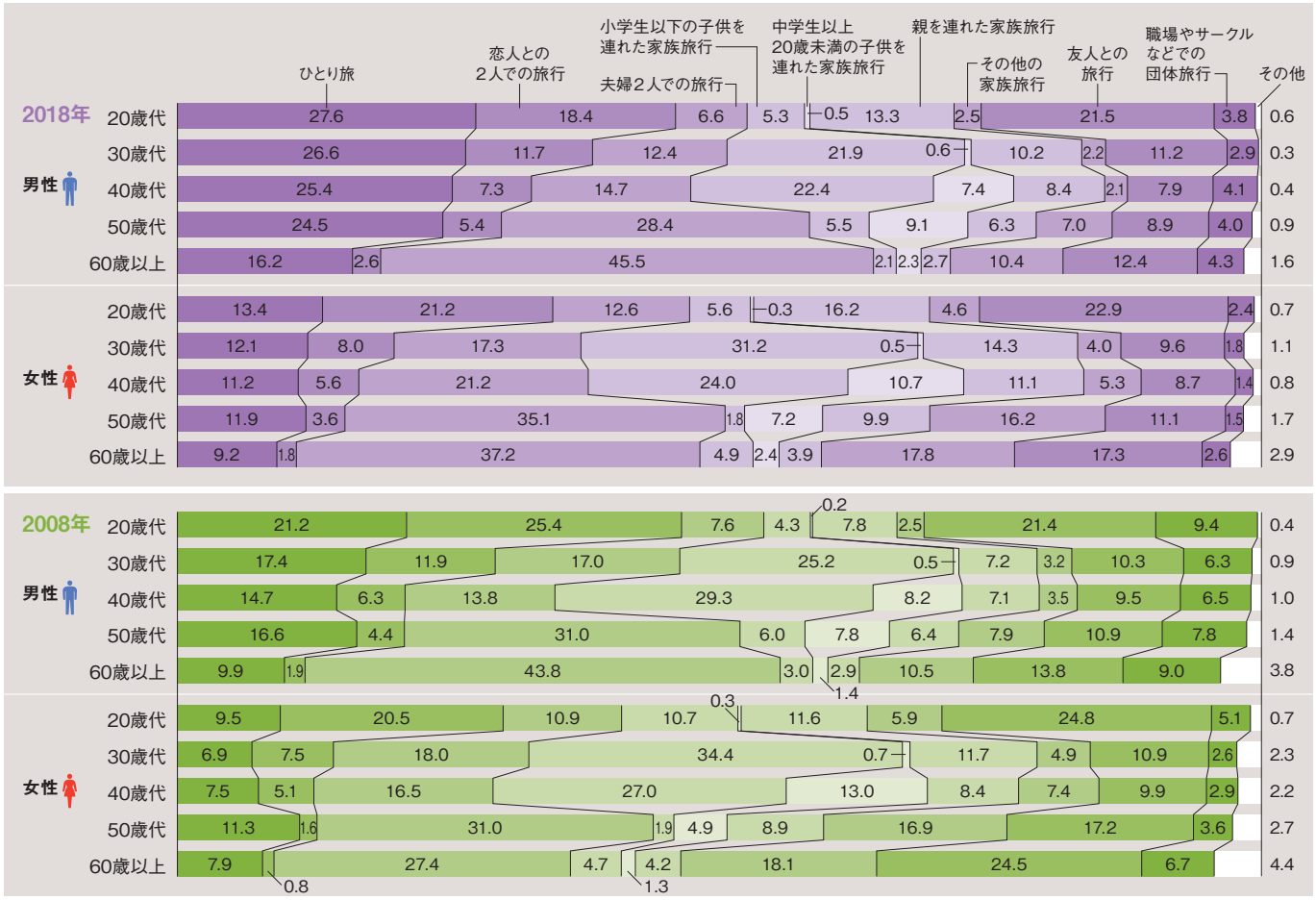
同行者については、シニア全体で多いのが夫婦2人での旅行。と

表1　宿泊旅行実施率（全体、性年代別）
国内宿泊旅行実施率・全体：55.6%　単位：%

	男性	2011-2018の差	女性	2011-2018の差
20～29歳	52.9	-0.4	61.2	-1.3
30～39歳	56.0	0.9	59.3	1.0
40～49歳	52.7	0.8	53.7	1.8
50～59歳	52.8	3.4	54.1	-4.2
60～79歳	57.3	-5.7	58.8	-7.3

図7　宿泊旅行の同行者（宿泊旅行実施者、性年代別、単一回答）

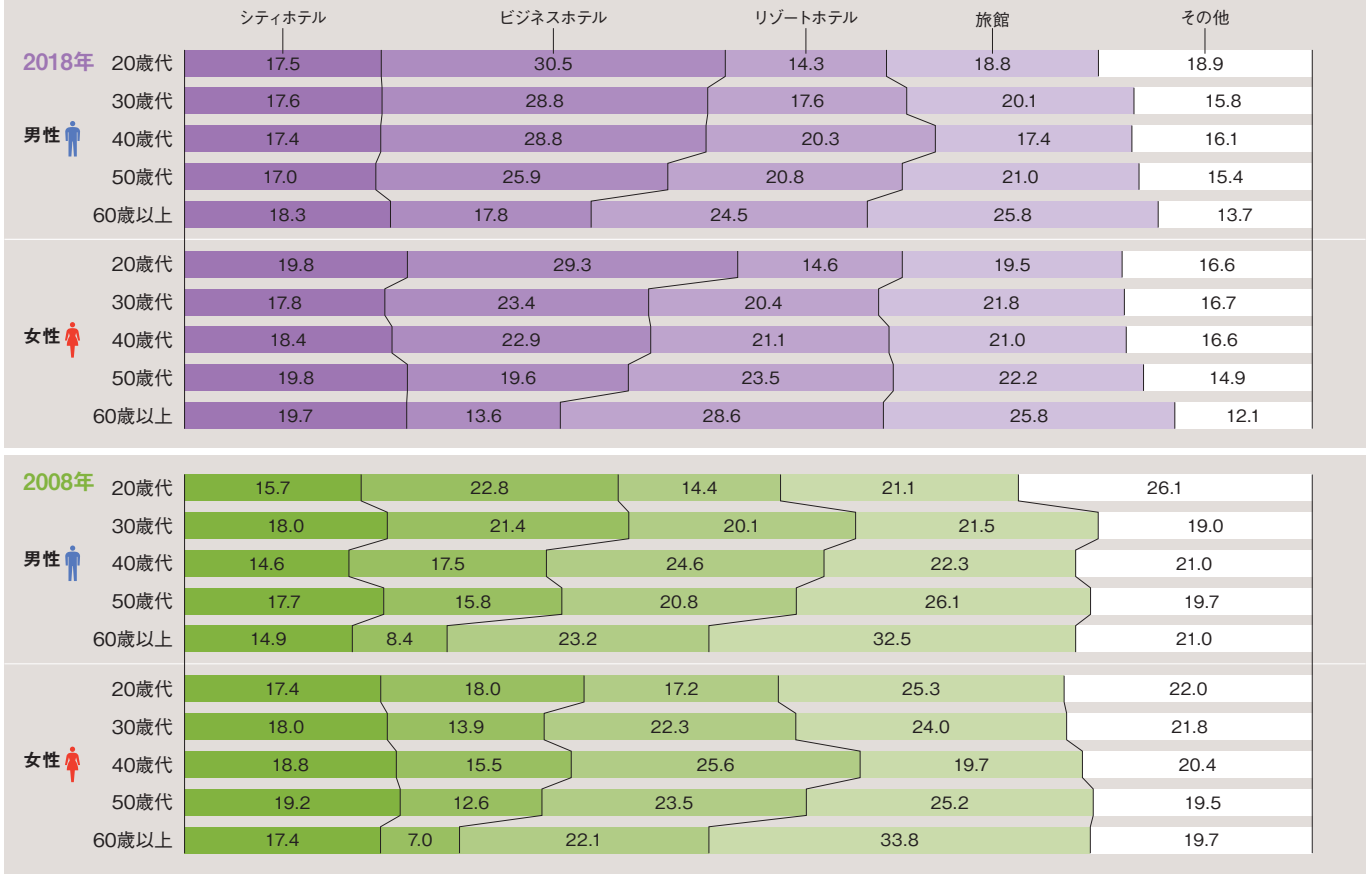
単位：%



※四捨五入した値のため、合計が100にならない場合がある

図8　宿泊施設のタイプ（宿泊旅行実施者、性年代別、単一回答）

単位：%



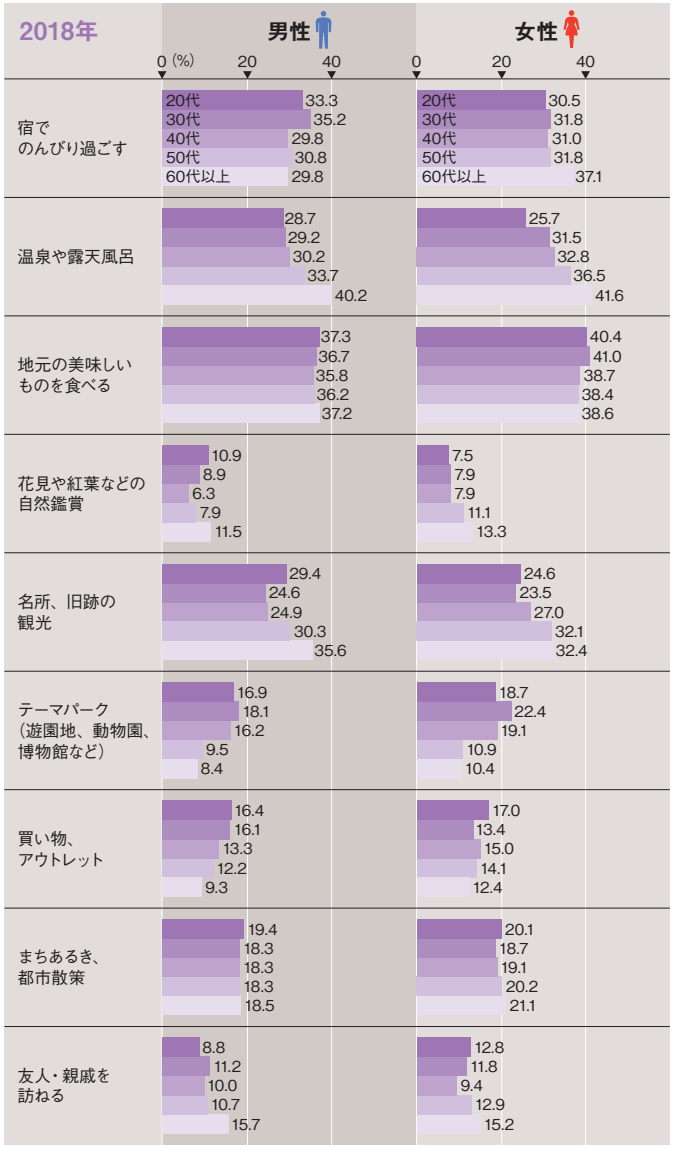
※四捨五入した値のため、合計が100にならない場合がある

くに60代男性では多く、妻以外の交友関係があまり活発でない様子も見て取れる。「その他の家族旅行」が多いのもシニアの特徴だが、「成人した娘と母」といった気楽な関係もここに含まれると考えると納得だ。50代の場合はまだ親連れ旅、子連れ旅も目立つが、60代になると一気に減少する。10年間の変化で注目したいのは、50代、60代以上を含めたシニア女性の「友人との旅行」の減少。煩わしい人間関係を避ける世代に入れ替わり、「部屋まで同じ」宿泊旅行に抵抗を見せている可能性がある。

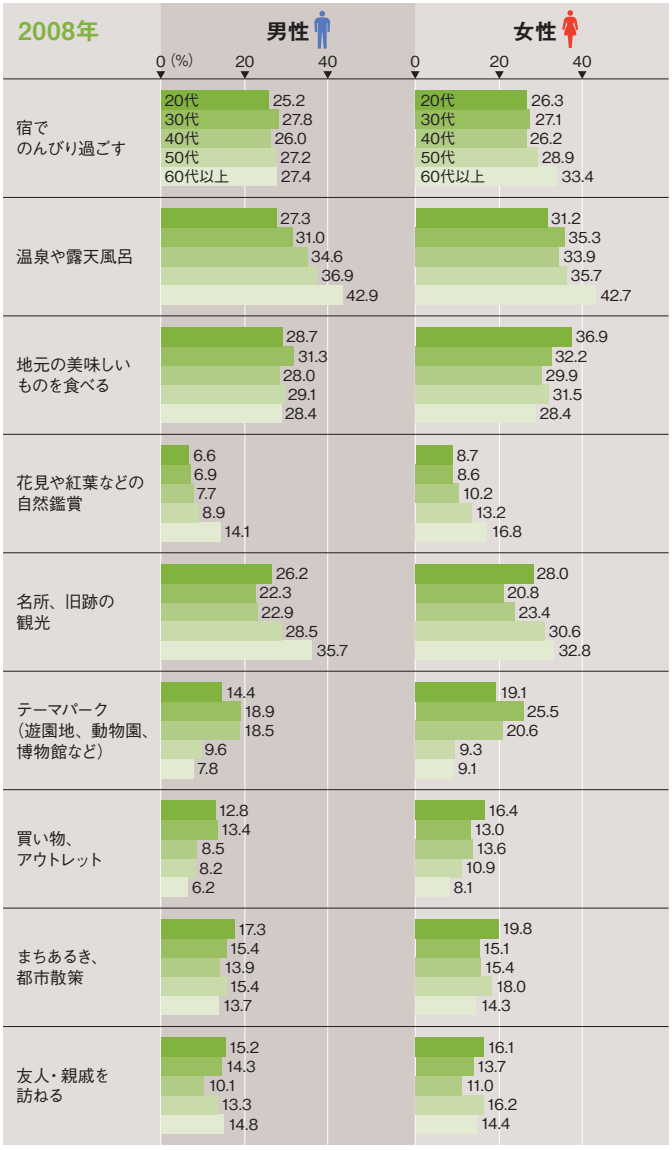
旅の目的（図9）は、10年での変化よりシニアと他年代との差が目立つ。たとえば「温泉や露天風呂」「自然観賞」は50代から60歳以上で多い。それでも10年前との比較ではかなり減っていて、今後こうした特徴が失われていく可能性もある。その他の特徴では「宿でのんびり」が60歳以上女性に多いこと、「友人・親戚を訪ねる」が60歳以上男性に多いことなど。10年間での変化は概ね全体トレンドと連動しているが、とくに60歳以上の「まちあるき・都市散策」や「地元の美味しいものを食べる」が大きく伸びていることには注目だ。

図9　旅の目的（宿泊旅行実施者、性年代別、単一回答、抜粋）

単位：%



単位：%



その他注目データ

1泊2食が多い

宿泊タイプでは全体でも1泊2食が47.0%と最大だが、60歳以上では男性57.7%、女性61.0%とさらに多い。反面素泊まり（全体で21.3%）は、男性13.9%、女性11.7%と少ない。

目的地エリアに遅く着き早めに出発する

50代以上の目的地エリアへの到着時刻は14時以降、出発時刻は50代で13時30分以前、60歳以上は13時以前。滞在時間か短い分、現地小遣い額も控えめ。

60歳以上の2次交通で多い貸切／観光バス

利用率全体平均6.0%に対し、60歳以上男性では9.4%、60歳以上女性では13.1%。体力的に楽なだけでなく、慣れない手続きが不要なこともシニアには魅力。

50代男性と60歳以上女性はパック旅行総額が高い

50代男性と60歳以上女性はパック旅行の際の総額が高い（順に8万1200円、7万8200円）。なお60歳以上女性はパック旅行比率も15.8%と全性年代中最大。

インタビュー

加齢による共通点×価値観の変化で現代シニアの旅を捉える

ライフステージ面でも身体面でも大きな変化を迎えるシニア層。他の年代にはないその多様性について、多角的なシニア研究を展開する株式会社ビデオリサーチVRエイジング・ラボの對馬友美子氏に話を聞いてみた。

加齢による心身の変化が行動に影響を与える

VRエイジング・ラボでは、マーケット視点による調査に加え、「老年学（ジェントロジー）」の視点を取り入れた研究を行っている。加齢に伴って起こる身体や心、さらには周囲の環境も踏まえた上で消費者の姿を捉える手法だ。

加齢による体の変化には、老眼、腰痛、ひざ痛、尿失禁、女性の場合は更年期障害などがあり（図10）、こうしたことが行動にも影響を与えている。まず、自分で自由に動けないと楽しくないので、出かけること自体が億劫になりがちだ。とくにトイレの問題は大きく、「人前で恥ずかしい思いをしたくない」という思いから外出に消極的になるケースも多い。同時に、こうした身体の変化に伴う特徴的な心の動きもある。VRエイジング・ラボの調査によれば、今のシニアは気持ちの上では自分のことを実年齢マイナス8歳と認識している。つまり、まだまだ若いつもりなのに身体には不調が表れ、「できるつもりのことができない」という忸怩たる思いを抱えているわけだ。

「だから『シニア扱い』は禁物。一方で、身体の問題をサポートする物理的配慮は欠かせません」（對馬氏）

能力的な変化にも特徴がある。「何かができる」ということは、「結晶性能力」と「流動性能力」に分けられる。結晶性能力は、料理の手順や職人的技術など経験によって熟達する能力で、生涯伸ばし続けることができる。これに対し流動性能力とは、瞬発力やとっさの動き、新しいことを覚えるなどの能力で、加齢によって衰えてしまう。デジタル機器を使いこなせないなどの傾向は流動性能力の低下によるものと考えられ、シニア層には共通した問題なのだ。

価値観の変化が目立つポスト団塊～バブル世代

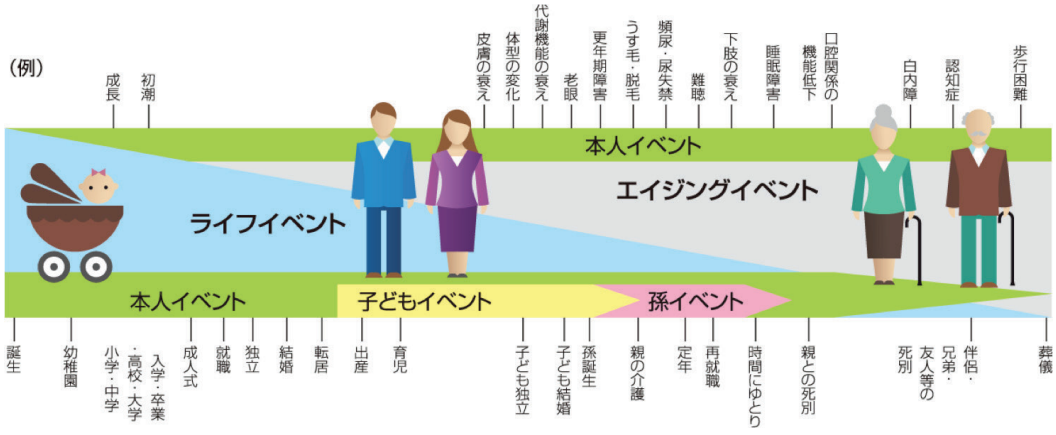
時代の変化や世代による違いも、現代シニアを理解する助けになる。

「日本老年学会の発表によると、10年前のシニアと比べて現代のシニアは身体能力や知能などが10歳若いといいます。健康な人も多く、定年延長により60歳を過ぎても働いている人はたくさんいます。いわゆる前期高齢者（65歳～75歳）はもはや高齢者とはいえないのではないか?という議論も持ち上がっています」（對馬氏）

世代についても10年前とは入れ替わりが起こりつつある。「アクティブシニア」という語の主役でもあった「団塊の世代」は現在69～71歳。ここを境に、価値観の変化が起こっているというのだ。

「団塊世代には革新的な人が多い印象がありますが、それはそうい

図10　若い年代にはない、シニアならではの共通特徴



出典：株式会社ビデオリサーチVRエイジング・ラボ、シニアライフデザイン共同研究



株式会社ビデオリサーチ
ひと研究所 主席研究員
VRエイジング・ラボリーダー
對馬友美子氏

調査会社、広告会社を経て2013年株式会社ビデオリサーチ入社。生活者研究、主にシニア層の動向や意識の把握と有効なアプローチの探索に携わる。

う人たちの声が大きいから目立つだけ。実際に調査をしてみると、価値観の保守・中庸・革新はそれぞれほぼ同割合で、案外保守的な人も多いのがこの世代です。本当に新しい考え方をする人が増えてきたのはその下の世代から。現在60代の人たちは、それまでの60代とは違う価値観を持っている人が多いと感じます」（對馬氏）

さらに女性の50代前半、男性の50代後半は、社会に出たころにバブル期を経験した世代。とくに女性は消費意欲が高い傾向にある。一方で今の50代には年金不安や、定年まで今の職場にいられるかどうかわからないという先行きの不透明感もあり、将来に向けた経済的不安は大きい。シニア＝経済的に余裕があるという時代は終わりつつあるのだ。

「またこの世代は男女雇用機会均等法世代でもあり、女性の就業率が高いのも特徴。退職後に何をしてよいかわからない男性を私たちは『モラトリアムおじさん』と呼んでいますが、働いてきた女性が退職を迎える今後は『モラトリアムおばさん』が増えるかもしれません」（對馬氏）



新シニア市場攻略のカギはモラトリアムおじさんだ！

株式会社ビデオリサーチ ひと研究所編著
ダイヤモンド社刊

1000人を対象にした調査に基づいてシニア市場を分析。従来の「アクティブシニア」の枠を超え、今後のシニア消費で有望なのはどの層か、どうアプローチすべきかを論じる

全シニア旅行者に共通する？「最後の○○」という動機

こうした現代シニアの姿は、『じゃらん宿泊旅行調査』のデータにも、反映されているようだ。「旅行に興味があるのに『何となく旅行しないまま過ぎた』という人が多い点には、現代シニアの『忙しさ』を感じます。実施率の低下には、『やること』が分散、多様化している影響かもしれませんね」（對馬氏）

とくに60代女性の旅の特徴には、人間関係や家族についての新しい価値観がよく表れているようだ。

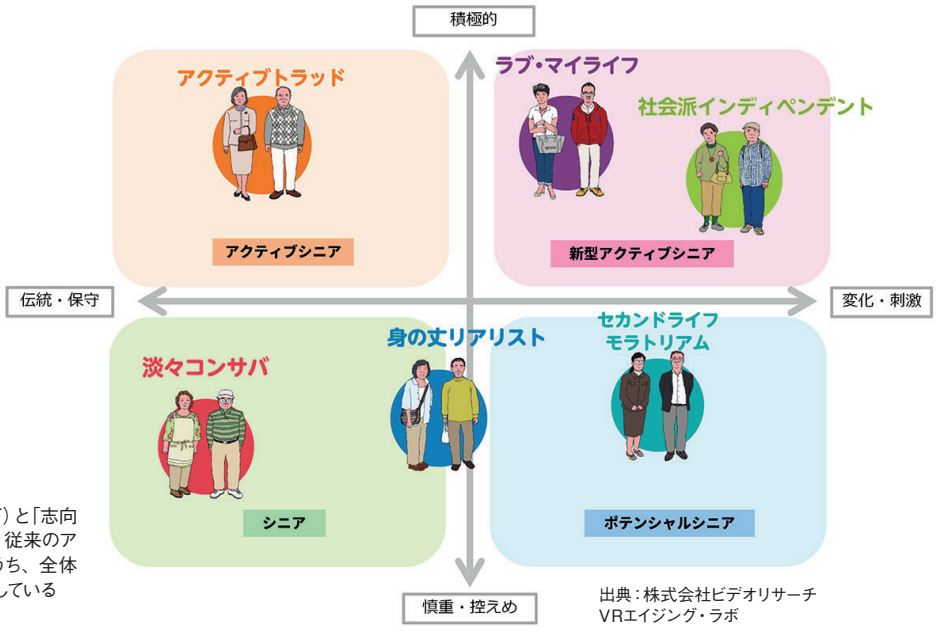
「友人との泊まりの旅行が減っているのは、本当に親しい友人以外との関係を避けたい気持ちの表れでしょう。一方で夫婦での旅行が増えているのは、日ごろお互い好きなことをしている分、『旅行くらいは付き合おう』という気持ちがあるのかも。旅に行かない理由にペットが挙がるのも納得で、最近のペット市場の成長はシニアがけん引していると言われています」（對馬氏）

一方で對馬氏は、「シニアを年代だけで区切るのにはやや無理がある」とも指摘する。図10に示されているようなイベントだけでも人によって訪れるタイミングが異なり、同じ世代でも価値観に幅があるためだ。そこでVRエイジング・ラボでは、シニアを価値観で分類した図11のような捉え方を提唱している。年代別の傾向を踏まえつつ、こうした分類に目を向けてみるのも、シニア旅行者像を捉えるヒントになるだろう。

こうした事情はありつつも、あえてシニアに普遍的な旅行の動機を挙げるなら「あと何回○○できるか」という「人生の引き算感」ではないかと對馬氏は言う。

「たとえば『これが最後の紅葉かもしれない』という思いが、シニア旅行者における『自然観賞』の人気につながっているのでは。ただし『最後の○○』の中身は世代によって変わる可能性もあり、もしかしたら何年か後には『最後のフェス』というニーズが生まれているかもしれませんね」

図11　価値観によるシニアの6グループ



出典：株式会社ビデオリサーチ VRエイジング・ラボ

VRエイジング・ラボでは「行動軸」（上下）と「志向軸」（左右）でシニアを6グループに分類。従来のアクティブシニアとは異なる右側の3つのうち、全体の約3割を占める右下のグループに注目している

その 2

コンシェルジュ付き贅沢（実はローテク）旅

ヤングには当たり前のスマホ予約もシニアにはハードル高め。「きっぷのWeb予約が難しいから、やってくれる人がいないと旅に行かない」という声もある。そんなシニア向けには、すべて人力でお手伝いするサービスがやはり有望。ただし重要なのは必ずポジティブな表現で伝えること。「できないことを手伝う」ではなく、「贅沢」「至れり尽くせり」といった表現がよさそうだ。

その 1

「1人1部屋！」で煩わしくない友人旅

60代女性で「友人との旅行」の旅行が減っているのは「よくわかる。煩わしいんですよね」と對馬氏。日帰り旅行ならまだしも、宿泊旅行では部屋まで同じというのが心理的負担で、そういう点で我慢してまで旅に行かないのが現代シニアでもある。であれば、アクティビティや食事はグループで、ただし宿泊する部屋は別々というプランがあってもよいかもしれない。

對馬さんと一緒に考えてみた！

現代シニア & more

こんな旅ならいいかも！

アイデア集

現代シニアに提案するならどんな旅？
ここまででご紹介しきれなかった話題も含めつつ、新しい旅のアイデアを検討してみた。

その 5

逆転の発想！ VR観光地

どこにいても美しい映像が楽しめる今、若者の間では「行った気になって旅行しない」ことが課題とも言われる。これを逆手に取り、健康上の事情などで旅行に行けないシニアに映像で旅を提供するバーチャルツアーを商品化。最新のVRスコープなどの活用で、単に映像を見るだけでない旅の体験を提供できる可能性もある。昔よく行った街の映像視聴などは、認知症予防の観点からも効果が期待されているそうだ。

その 4

「やり尽くした人」向け 深掘りツアー

高齢になると旅行欲自体も弱くなる？という編集部の疑問に「その傾向があるとすれば『やり尽くした』からでは。実際、リタイア直後に張り切って旅行に行きまくり、しばらくして『もう行き尽くしたから旅行はいい』という人はいます」と對馬氏。そういう人にも「やったことのないこと」はまだまだ有効らしく、写真の撮り方講座とセットになった撮影旅行など観光＋αの「深掘り」企画は実際に人気を集めている。

その 3

連れて行かない ペットケア付き旅行

對馬氏によると「ペット市場の急伸を支えているのはシニア層」。さらに飼い主とともにペットも高齢化し、自宅でペットの介護に当たっているという人も一定数いるようだ。こういう場合はそもそもペット連れで旅行に行くという選択肢が考えにくいが、旅行中、自宅で専門のペット介護士や動物看護師がペットの世話をするオプション付きなら飼い主シニアの背中を押せる可能性もあるかもしれない。

とーりまかし的 考察

高齢化社会に向けて当事者意識こそがシニア旅行を豊かにする

シニア特集を組むにあたって立てた仮説は、年代要因と世代要因の2つがありそうだということである。加齢に伴う需要と、その世代特有の需要。もちろん個人によって価値観も異なるという。年代要因はある程度普遍的なものとも考えられ、長期的な戦略に反映しやすい。一方、世代要因や価値観は時代と共に変化するため、その都度アップデートしていく必要があるだろう。

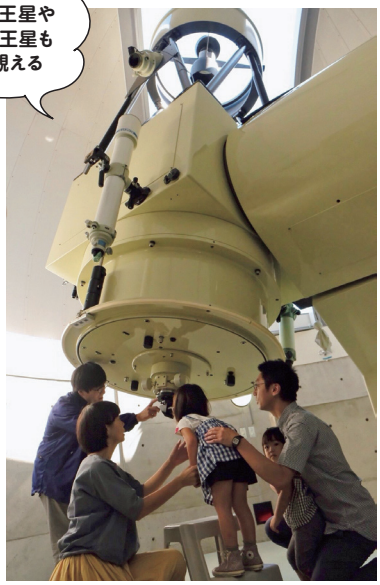
シニア研究の難しさは、当事者がプレイヤーにいないことが多いことだという。マーケティングでシニアがこれまでひとくくりに考えられやすかったのは、プレイヤー側に当事者意識が薄かったことも要因のひとつだろう。

多くのシニアにとって旅行は楽しみのひとつである。物理的なハードルが上がっても、その年相応に楽しめる旅行があれば、若々しく楽しい生活を送る活性剤になりうる。自分たちの親や祖父母を想像して、少しでも自分事として考え、シニアに寄り添う、まごころのある旅行を創りだすことが、シニア攻略の最短の道だ。何よりも、いずれ自分たちもシニアの仲間入りをするのだから。





左上／一見、児童館には見えない外観　下左／客室は一部を除き、室内にトイレを新設



朝から夜まで楽しめる、天文台付きの児童館

姫路市宿泊型児童館 星の子館

ほしのこやかた　　兵庫県姫路市

あの安藤忠雄氏が設計。
リニューアルでさらに子連れに優しく

子どもにとって時間を忘れて好きな遊びに熱中できるのは、この上もなくうれしいことに違いない。そんな望みを叶えるのが、この宿泊できる児童館。一般来館者は17時までプレイルームを利用できるが、宿泊者であれば21時までOK。さらに、兵庫県で2番目に大きいという天体望遠鏡を備えた天文台があり、毎日19時～と20時～の2回、天体観望会を行っている。雨天の場合も、観望会は実施。クイズで宇宙のことを知ってもらうなど楽しく過ごせる工夫をしている。

コンクリート打ちっぱなしなど、児童館としてはスタイリッシュなデザイン。世界的建築家である安藤忠雄氏が設計、館内は子どもたちの探究心をくすぐる迷路のような造りになっている。開業から26年経ち、この11月3日にリニューアルオープン。耐震、空調面での工事に加え、授乳室や親子トイレ、ベビーカーやベビー用設備などが充実。「赤ちゃんや家族連れにさらに優しい宿泊施設を目指します。また、ランチ、夕食ともに地元食材使用のメニューも提供します」（広報 関口哲也さん）。

DATA　兵庫県姫路市青山1470-24　●オープン／1992年　●管理運営／神姫バス　●部屋数／14室（和室、ツイン）　●料金／1泊素泊まり　児童（18歳未満）と一緒の場合は大人1名4600円、大人のみで宿泊の場合は5500円　●設備／天文台、プレイルーム、どくしょルーム、なかよしホール（別館）あり



重厚な丸屋根が印象的な表門

2021年のオープンが待ち遠しい“監獄ホテル”

旧奈良監獄

きゅうならかんごく

明治政府が監獄の国際標準化を目指して計画した五大監獄のひとつ。明治41年に建設され、2017年に老朽化により閉鎖されるまで奈良少年刑務所として使われていた。ロマネスク様式のレンガ建築で、およそ10万㎡の敷地内中央に放射状に延びた5つの収容棟を配置。五大監獄の中で唯一、全貌を残して現存している。重要文化財指定。

観光ビジョンなどにおいて、文化財を従来の「保存優先」から観光客目線での「理解促進」、「活用」することが謳われており、この旧奈良監獄が国有の文化財を保存・活用する最初の取り組みとなる。運営は特別目的会社である旧奈良監獄保存活用（株）。

ホテル以外に、食事、ショッピング、エンターテインメント等、様々なコンテンツを揃える計画。2019年10月に史料館をオープン、2021年春に全館の運営を開始予定。



客室の完成イメージ

駅舎、印刷工場、博物館…“想定外”のコンセプト宿

え？ ここに泊まれるの？

ロマネスク様式の重要文化財「旧奈良監獄」がホテルとして生まれ変わるというトピックスは、「ぜひ泊まってみたい！」という気持ちを多くの人に抱かせたはず。
通常であれば足を踏み入れることのない空間を、
ワクワク感をもって体験できることは観光の大きな楽しみのひとつだからである。
泊まれると思っていなかった施設が、実は宿泊できる。
そんな意外性のある宿の、発想と支持されるためのワケを探っていこう。

写真／久保田敦

※宿泊料金は、平常時の1泊大人1名分の料金（税サ込）を参考までに表記しています。
管理運営は委託（指定管理等）されている場合のみ表記しています。





上／昼の展示室も迫力あるが…　右／夜は照明も音も違って雰囲気バツグン。それを浴衣でも楽しめるのがいい　下／自分で描いた絵が動きだすのも夜限定



通年泊まれて、宿泊者限定の「ナイトミュージアム」を開催

奥出雲多根自然博物館

おくいずもたねしぜんはくぶつかん　　島根県奥出雲町



山間の町に多くの人が訪れる

リピートされるヒミツは少しずつでも進化し続けること

宇宙の進化と生命の歴史をテーマに、化石や恐竜の骨、標本などを展示。駅から徒歩20分、島根県の山間部にある小さな博物館だが1年を通して賑わいを見せている。そのヒミツは宿泊者だけが体験できるナイトミュージアム。毎夜19時30分～21時まで、照明を落としBGMも変えて、昼とはまた違った趣向で楽しめる空間を作り出している。懐中電灯片手にじっくり観察しないと解けないクイズや各種グッズも用意されていて、探検気分で楽しめるのだ。

この博物館は、奥出雲出身の実業家であるメガネのパリミキ創業者が地元のために創設。1～2階が展示室、研修室、3階～6階が宿泊施設、食堂と、今と変わらない構成だが、オープン当初は建物の上下で全く別の役割を果たしていた。3階以上は主に企業の新人研修に使われ、博物館は夕方で閉館。受付も別々の階にあったことなどから、研修に来て泊まった人が展示を見るということはなかった。やがて長期間にわたり大規模な新入社員研修を行う時代は去り、運用について再考する必要が出てくる。今ある施設のまま喜んでもらえる方法として考えたのがナイトミュージアムなのだ。2011年にリニューアルしてスタート。当時は一部分のみだった夜バージョンも、今年の夏からは全展示室で実施。「毎年来てもらい、本当に楽しんでもらいたいと思っています。メディアにも取り上げていただく機会が増えましたが、全国に紹介されても遜色のないミュージアムになるべくまだまだ進化中です」。(館長 宇田川和義さん)。クイズもなかなか手強く、大人にも見応えのある内容だ。

DATA　島根県仁多郡奥出雲町佐白236-1
●オープン／1987年　●部屋数／19室（シングル、ツイン、トリプル）　●料金／1泊素泊まり1室2名利用時1名4750円～（目の前の温泉施設「佐白温泉長者の湯」入浴料込み。宿泊中は何度でも入浴可）
●設備／図書室、ふるさとの古代展示室、ミュージアムショップあり









上右／3階は全室を恐竜ルームへ変更予定。親子だけではなく男性1人客の宿泊もある　上左／料理には地元産の食材も。1人分ずつ釜で炊く仁多米の朝ごはんが好評　下右／ナイトミュージアムでは懐中電灯も貸し出し　下左／クイズは高得点で景品あり



木々の向こうに空が見える丸太風呂は、追い焚き機能もあり





右／比羅夫駅に停まる電車は上下合わせて1日13本。夕食時の18時台には2本　上左／日本人は駅舎の客室にこだわるが、外国人客にはログハウスの方が人気あり　下左／宿への入り口はかつての待合室の中に







元物品庫のホーム側客室は山小屋風の2段ベッド

JR北海道 函館本線の駅舎がそのままゲストハウスに

駅の宿 ひらふ

えきのやど ひらふ　　北海道倶知安町

名物はホームでのバーベキューと手作りの丸太風呂

駅のビルに直結したホテルはあるが、ここは駅舎そのものを使ったゲストハウス。JR北海道から借り受けて、函館本線比羅夫駅のホームで南谷吉俊さんが営業している宿だ。先代のオーナーが国鉄時代に交渉して一度は断られたものの、民営化された時に再度交渉してOKに。1階の駅事務室だったところをリビングに、2階の宿直室と物品庫を客室として利用。南谷さんが造ったログハウスも2棟あり、冬はスキーに訪れる外国人客、その他の季節はファミリー、登山客、そして鉄道ファンで賑わっている。

夕食はGWから10月初旬までホームで食べるバーベキュー。「せっかくなので、18時台に到着する電車に合わせて食べられるようにしています。その方が楽しいので」（南谷さん）。楽しいと言えば、この宿にはもうひとつの名物・丸太風呂があるが、創業時からのものは老朽化し、外国人客も使いやすいユニットバスに替えた。いろいろな面で楽になったが、「しかし面白くない」と南谷さん。そこで今度は以前よりも大きな丸太風呂を手作りし、今年の6月から入浴できるようになった。旅好きのオーナーが「自分が楽しくやりたいことを提供しているだけ」というが、それがお客さんのニーズとしっかり合っているのが強みと言える。

DATA　北海道虻田郡倶知安町比羅夫594-4
●オープン／1988年　●部屋数／23床（駅舎2階2室、ログハウス2棟）　●料金／1泊素泊まり1名3650円、1泊2食付き1名6000円（食事はGW～10月初旬まで）



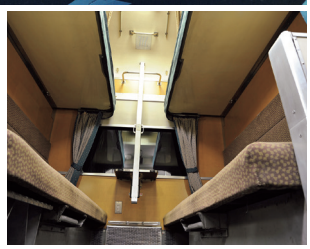


上／コミュニティスペースには給湯器やTVも　下／トイレは新設で使いやすくなっている

DATA　熊本県球磨郡多良木町大字多良木1534-2
●オープン／2010年　●部屋数／48床（個室、開放型ベッド）
●料金／1泊素泊まり1名3080円（10名以上で団体割引あり。「多良木町ふれあい交流センター えびすの湯」入浴料込み）







上／線路際にあるので、列車が通れば「走行気分」を楽しめる　下右／元B寝台の開放型タイプ　下左／元ソロはそのまま個室に

九州最後の寝台特急の車両に眠りその当時の雰囲気を体験できる

ブルートレインたらぎ

ブルートレインたらぎ　　熊本県多良木町

かけがえのない施設を保つために車体には屋根。客室での飲食は禁止

正式名称は「多良木町都市農山村交流施設」。その名の通り、都市部と農村部の交流と町への宿泊者の増加を目的に寝台特急（愛称ブルートレイン）「はやぶさ」の車両3両をJR九州から購入し、くま川鉄道沿線に設置。2両を客室に、真ん中の1両をコミュニティスペースとして活用できるように当時のものをできるだけ残しながら改修している。食事の提供は曜日限定で販売している朝食用パンのみだが、目の前には物産館があり、町の中心部にも近いので飲食店も利用しやすくなっている。

客室は、元「ソロ」の1床ずつの個室と、2段ベッドが向かい合わせになっている開放型4床、2段ベッドが片側に1つの、計3タイプ。現役当時をそのまま再現していると評判が高い。替えのきかない施設だけに「劣化しないように使っていくことが大きなポイントで、屋外にあるために施設上部には屋根を設けています」（多良木町企画観光課商工観光係）。また飲食もコミュニティスペースのみに限定し、客室内は禁止にしている。

カフェ、ワーキングスペース、ドミトリーを備えた現役の印刷工場

PLAY&WORKS ADLIV

プレイ アンド ワークス アドリブ　**徳島県美馬市**

前例がない宿泊施設は相談しながら進めるのがコツ

地元の広告会社ナカガワ・アドが所有し、59年前から稼働し続けている印刷工場。それが今年の6月、地域のプラットフォーム的存在として生まれ変わった。2階建ての内部には、カフェ、レンタルオフィス、コワーキングスペース、宿泊スペースなどが入っている。印刷機はデジタルに変わったが、活版印刷機などをオブジェとして展示。印刷工場ならではのワークショップも計画中という。「地域に今まではなかった交流拠点を作りたかった」（ナカガワ・アド中川和也さん）。飲食、宿泊業には保健所や消防署の許可が必要だが、印刷工場をこのようにリノベーションした事例がなかったため、許可が降りるまでに時間がかかると言われたという。また延べ床面積は1078㎡だが、宿泊施設、カフェなどで使用するスペースはそれぞれ建物の一部分。「行政の方などに細かく相談し、確認を取りながら間違えなく、かつ、無駄のないように進めていきました」（中川さん）。許可などのルールはもちろん決まっているが、構想をしっかり伝えられたことで地域が応援してくれる気持ちを感じたという。パーティーやコンサートの開催ほか、省庁の視察研修にも使われるなど、地域の新しいモデルとして定着してきている。

印刷工場を体感！









上右／クライアントの企業秘密にかかわるため印刷風景を見学することはできないが、活版印刷機や活字が展示されているので雰囲気十分　上左／吹き抜けで使い勝手がいい内部。カフェはナカガワ・アドの営業時間内で社員が対応している　下右／うだつの町並みや日本一の清流として知られる穴吹川に近い　下左／宿泊スペースはドミトリー。ベッドはシングル2つと2段ベッド

DATA　徳島県美馬市脇町大字猪尻字若宮南131-2
●オープン／2018年6月20日　●部屋数／8床　●料金／1泊素泊まり1名5500円　●設備／カフェ、レンタルオフィス、コワーキングスペースあり





右／連棟。バーベキューは屋根付きもあり雨天もOK　左／10名定員のコテージ。リピーターからの要望でコテージ1棟のみペットOKに

ありそうで、実は珍しい？果樹園の中の温泉付き貸別荘

城ヶ崎オレンジ村

じょうがさきオレンジむら　**静岡県伊東市**

観光のオフシーズンにみかん狩りで集客できる強みあり

観光地として人気が高く、みかんの産地として知られる伊豆高原エリア。60年以上続くみかん園の中に、23年前にできたのがこの貸別荘。農家や牧場のファームステイはよくあるが、ありそうでなかなかないのが果樹園ステイだ。宿泊者はみかん園の入園料が無料。車で数分のところにスーパーがあり、食材持ち込みでのバーベキューが人気。

みかん農園としては三代目。おじいさんが始めた農園を二代目のお父さんたち6人兄弟が分割して相続。小さくなった農園の経営を助けるために、その時に造ったのがこの貸別荘だ。「夏の繁忙期が終わった10月頃にみかんのシーズンが始まります。温州みかん、いよかん、デコポン、清見オレンジ、甘夏、ニューサマーオレンジと続き、5月頃まで。観光としてはオフの時期にもみかん狩り目当てに来られるので助かります」（三代目 三好清信さん）。家族連れ、夫婦のほか、釣り、ダイビング、ロッククライミングのグループも多い。また若年層グループの傾向が変わってきているのを感じているという。以前はサークルなどの団体が多かったが、最近は男女含む小グループが多く、男性1人以外すべて女性というケースもあったとか。



温州みかん。時間制限なしだから、心ゆくまで味わえる

DATA　静岡県伊東市富戸907-36
●オープン／1995年　●部屋数／9棟（2～4人用の5棟の連棟、5～10人用のコテージが4棟）　●料金／1泊素泊まり1室2名利用時1名4860円～（バーベキュー設備利用料は別途必要）

客室にソファ!?







右／本堂に隣接する宿。町のシェアサイクルのステーションもある　中／座禅体験は、子どもも参加できるのがお寺の中の宿ならでは　左／宿坊のイメージを払拭するおしゃれな空間

座禅体験のみにあらず。料理と温泉にもこだわる宿坊

モダン宿坊 禅の湯

モダンしゅくぼう ぜんのゆ　**静岡県河津町**

多彩なオプションメニュー。宿坊、その運営にNG事項はなし？

精進料理に座禅体験。宿坊と言えば思い浮かぶのは、このような厳かなイメージ。河津の慈眼院のこの宿でも、毎週日曜朝に座禅体験はできる。しかし宿名にあえて付けられた「モダン」そのものに、従来の宿坊とは明らかに違いを感じる。近海ものの金目鯛を使ったしゃぶしゃぶや見た目も楽しい創作料理、敷地内に湧く源泉かけ流し100％の温泉に岩盤浴。オプションメニューにはヨガや足つぼ、タイマッサージ、スピリチュアルカウンセリングまであるのだ。

33年前にユースホステルとして開業。しかしお寺にあるとは知らずに来て、お墓を見て驚く人もあったという。10年前の温泉掘削を機に宿名を変え、料理などもリニューアル。「ありのままを出していくことにしたのです。“伊豆の宿”としていいものをきちんと提供していきたいし、お寺とは元々、人々が集うみなさまの場所。ここで精神的なものを感じてもらえれば」（三代目女将 稲本雅子さん）。宿坊の運営には、実は決まり等があるわけではないそう。数々のオプションメニューはここで働くスタッフによるもの。禅の湯は「育する」をコンセプトに運営しており、スタッフたちも働きながら学び、自立していくことを目標としている。宿泊プランには、この宿で働いてみたい、伊豆に移住してみたいという人が気軽に体験できる「スタッフ体験プラン」もある。お寺という、人が集まる場所を存分に活かした間口の広い宿だ。

DATA　静岡県賀茂郡河津町梨本28-1
●オープン／1985年　●部屋数／14室（和室、和洋室）　●料金／1泊2食付き1室1名利用時7424円～（ビジネスプラン）　●オプションメニュー／座禅体験、マッサージ（足つぼ、タイ式）、ヨガ、リトリートあり

※1 文部科学省「廃校施設活用状況実態調査の結果について」(2017年1月12日)より。調査対象は、全国の公立の小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校。廃校発生数は、2014年度は477校、2015年度は520校、2002年～2015年で6811校。施設が現存している廃校は5943校で、すでに活用されているものは4198校。

廃校から宿へ 珍しさだけに頼らずアイデアで勝負！

毎年、全国にある学校のうち約500校が廃校になっているという※1。現存している廃校のうち70%は活用されており、宿泊施設として運用されているものもある。しかし単に「学校に泊まれる」というだけで選ばれ続けることは難しいだろう。人気を集める廃校宿は何が違うのか？







上／牡蠣小屋は、夏はバーベキュー場に　下右／近隣でカヤックを持った釣り人の姿を見かけたことをきっかけに、シーカヤックを取り入れた　下左／素潜り体験は漁業権を取得して今年の夏からスタート。サザエは前日にまいておく

シーカヤック、牡蠣小屋…海を活かした強力コンテンツ続々

風蘭の館

ふうらんのやかた　　京都府京丹後市

強力コンテンツは 2016年の第3次運営体制より登場

22年前に開業した時には、十割蕎麦の店と宿泊のみとシンプルな施設。今では、冬は牡蠣小屋、夏はシーカヤック、サザエを獲れる素潜り体験、遊覧船での夕涼みなど、海のすぐそばという立地を存分に活かしたコンテンツを次々に打ち出し、1年を通して多くの集客に成功している。徒歩10分の場所には、龍が天に昇るイメージで作られたというツリーハウスもある。

風蘭の館は、地区の活性化協議会が運営。途中で民間に委託した時期もあったが、2016年4月より運営体制を一新し、協議会が再び担当することになった。地域やワークショップの意見を参考に強みを探ったところ、「海しかない」ということを認識したという。協議会の5名がインストラクターの資格を取り、5月にまずはシーカヤックをスタート。初年度から150人を集め、今年の夏は400人を超えた。「今までと同じことをしていたらダメだと。この施設は冬が弱いので、冬強化のために牡蠣を使おうと思いました」(管理部 浜上誠さん)。自営業というこ



登れば絶景の海が見られるツリーハウス

とで施設の管理・運営を任された浜上さんの本業は牡蠣の養殖。翌年1月から始まった「60分食べ放題の牡蠣小屋ランチ」は初年度から大ヒットし、今ではシーズン終了まで平日も満員だ。しかし牡蠣小屋のために、冬は宿泊を受け付けられないほど忙しくなったのが悩みという。これを改善するために、あらたなアイデアを検討中だ。

DATA　京都府京丹後市久美浜町蒲井518-1 ●オープン／1996年　●管理運営／蒲井・旭地区活性化協議会　●部屋数／和室3室 ●料金／1泊素泊まり1室2名利用時1名4000円～　●設備／シーカヤック体験、牡蠣小屋、蕎麦処、ツリーハウスあり

特産品市場や多彩なレストランを備えた町のランドマーク的存在

都市交流施設・道の駅 保田小学校「学びの宿」

ほたしょうがっこう「まなびのやど」　　千葉県鋸南町

すべてにおいて 「V.O.C」(カスタマーの声)を活かしていく

施設全体が道の駅となっているために、常に賑わっている廃校の宿。「守る、伝える、育てる里山市場」を基本方針に、地域活性の核となる複合的商業施設として、広い敷地を有効に使い、買い物、飲食店ともに充実。宿泊施設「学びの宿」は旧校舎2階にあり、客室内にも懐かしの教室の雰囲気が色濃く残されている。室内には黒板が残され、使用されていた机と椅子も置かれ、教室に泊まっている感満載だ。

開業から3年、最も多い宿泊層はファミリー。次いで20代の女性グループという。町のランドマークとして、すべてをここで体現できる施設となっているが、それを支えているのがV.O.C。「学校の廃校は全国的な問題ですが、今のところはTV、新聞、雑誌などのメディアで話題を集め、多くの集客があります。今後これをいかに継続していくかが重要です。カスタマーからの声は、サービス、設備、品揃えを考えていく上で大変参考になっています」(校長／駅長 大塚克也さん)。



里山食堂には給食メニューも。食事処は、他に石窯で焼く薪窯ピッツア、中華料理、カフェ

DATA　千葉県安房郡鋸南町保田724 ●オープン／2015年　●管理運営／共立メンテナンス　●部屋数／個室(2～4名)10室、大部屋(5～15名)2室　●料金／1泊素泊まり1名3500円～(大部屋)　●設備／飲食店4、買い物店2、レンタルスペース(まちのギャラリー、音楽室、家庭科室)、イベント広場、鋸南町観光情報コーナー、日帰り温浴施設、こどもひろばあり









上／鋸南保田ICを降りてすぐという、アクセスのいい廃校施設　中右／学びの宿　4年1組の客室内　中左／「まちの縁側」。日中は来館者、夜は宿泊者専用のリビングスペースになる　下／体育館は野菜、花、房総全土の土産を扱うビッグマルシェ「きょなん楽市」に

宿ではないけれど、
アイデアに拍手！

プールや校舎内に
室戸産の魚を展示したミニ水族館

むろと廃校水族館

むろとはいこうすいぞくかん　高知県室戸市

25mプールは砂を敷き詰めた巨大水槽に。館内の水槽も合わせて飼育・展示されている50種類1000匹以上の魚はすべて地元で獲れたものばかり。目玉となる“アイドル”をわざわざ取り寄せたわけではない。室戸の廃校した小学校を使って、室戸でしか会えない魚を展示している。この「室戸らしさ」が話題を呼び、オープンから半年での入館者数は10万人を突破。休日には用意した臨時駐車場も混雑するという、うれしい予想外のヒットを記録している。学校らしさをうまく残した展示方法と水族館が融合していることも人気のヒミツのようだ。







上右／高知空港から車で約1時間30分の室戸岬にある　上左・下右／名物の巨大水槽等。定置網で獲れたウミガメやサメなど地元漁師さんの協力あってこそ

DATA　高知県室戸市室戸岬町533-2
●オープン／2018年4月26日

まとめ

他にはない宿泊施設だからこそ、苦労もあるし、個性もある。

吊り下がり式球体テントの客室など、最近ではアウトドア系にもこれまでは想定外だった宿泊施設が登場し話題を呼んでいる。環境省でも「国立公園満喫プロジェクト」として世界水準のナショナルパークとしてのブランド化を目指し、国立公園でのグランピングを促進する取り組みを始めた。

意外性のある宿は発想と実現するための実行力が生み出すことは言うまでもない。「駅の宿　ひらふ」のように一度は断られたものの、機を見て再挑戦して叶うということもある。また、既存の施設をリニューアルする場合、思ったよりも修繕に経費がかかり当初の予定通りに進まないケースは珍しくない。そしてアイデアに注目して訪れた人を満足させる過ごし方や快適性を用意しておくこともちろん必要だ。“想定外”のヒントはあちこちにあるのだ。この記事を参考に発掘しよう！

海とサイクリング。大隅半島の自然を満喫できる

ユクサおおすみ海の学校

ユクサおおすみうみのがっこう　鹿児島県鹿屋市

**今年の夏に誕生。
地域に密着し、道の駅のような役割も**

錦江湾を望む絶景のロケーションに位置し、SUPや大隅線の廃線跡でのサイクリングも満喫できる。テナントにはシルクスクリーン体験工房、自転車のプロショップ、カカオ豆の焙煎から製造までの全工程を行う"Bean to Bar"スタイルのチョコレート工場が入っている。

「地域との連携を活かした中長期滞在型のグリーン・ブルーツーリズムを目指しており、チョコレート工場では地元の障がい者の方も活躍されています。道の駅的な役割も務め、災害時は地域の避難場所になります」（マネージャー　繁昌孝充さん）。宿泊者にとっては非日常、住民にとっては日常生活をしっかり送ることができる、地域のベースとなっていく施設だ。





右／旧菅原小学校時には、映画の撮影に使われたことも。海に囲まれ、校庭から砂浜へ直接降りる道がある　左／教室の雰囲気を残し、かつ、シンプルにまとめられた個室

DATA　鹿児島県鹿屋市天神町3629-1
●オープン／2018年7月1日　●管理運営／Katasudde　●部屋数／個室（4名まで）2室、大部屋（18名まで）5室、ドミトリー男女各6床　●料金／1泊朝食付き1名4212円～（ドミトリー）　●設備／食事処、土産処、チョコレート工場、スポーツ自転車ショップ、シルクスクリーン工房、SUP体験あり

泊まって、地域の生活を体験できるメニューが約100種類

グリーン・ツーリズム体験 校舎の宿 さんさん館

こうしゃのやど さんさんかん　宮城県南三陸町

**女性の1人旅にも対応できるように、
シングルの客室を用意**

卒業生を中心に町に掛け合い「独立採算で維持する」ことを条件に生まれた宿。「泊まるだけではなくコミュニティの一員のように過ごしてもらいたいと『グリーン・ツーリズム』がメジャーではなかった時代に地域を体験できるメニューを用意しました」（事務 阿部あい子さん）。南三陸町全体を使い、ホヤやホタテ、牡蠣などの養殖水揚げができる漁業体験や魚のつかみ取り、子どもには夏休みの自由工作にもなる竹細工などが人気だ。

女性一人旅のことも考えシングルの個室を3室造り、ツイン、トリプルとともに客室内にバス・トイレを配した。また、現在はインバウンド対策としてアジアへの売り込みや、昼間の利用客を増やすための仕掛けも考え中という。





右／まだまだ新しい体験を考案中とか　左／田植え体験は10名より受付

DATA　宮城県本吉郡南三陸町入谷字山の神平10-1
●オープン／2001年　●管理運営／旧林際小学校運営事業組合　●部屋数／10室（シングル、ツイン、トリプル、和室／4～6名）　●料金／1泊素泊まり1名4536円。校庭にテントを張ってキャンプとしての利用も可（キャンプ使用料、各種体験は別途有料）。　●設備／研修室、体育館あり

25mの屋外プールにも温泉が注がれる、開業42年の老舗廃校宿

西伊豆町営やまびこ荘

にしいずちょうえいやまびこそう　静岡県西伊豆町

**歴史ある建物を
使いやすいようにバリアフリー対応にも**

全国の廃校宿の中でも老舗クラスと言えるだろう。「青少年宿泊施設」としてスタート。現在でも学習塾やスポーツクラブなど小規模団体の利用が多く、宿泊棟は60名から貸切で使用可。施設はシンプルだが温泉が名物で、浴室と25mプールに贅沢に注がれている。

個人客の客層も幅広く「リピーターも多く、毎月訪れるご夫婦もいます」（管理人さん）。2011年の全面改修時には通常の雨天時にも使用できるようにバーベキューエリアの屋根も大きくし、建物の入口や段差にはスロープ、多目的トイレを設置するなど、バリアフリーにも対応。様々な宿泊客に対応できるように改善して運営を続けている。





上／全面改修により、外観も中もきれいになった　左／「でっかい露天風呂」とも呼ばれる温泉プール

DATA　静岡県賀茂郡西伊豆町大沢里150
●オープン／1976年　●管理運営／共立メンテナンス　●部屋数／個室10室　●料金／1泊素泊まり1室2名利用時1名3456円（入湯税別途）　●設備／25m温泉プール、バーベキュー施設あり

MARKETING Crossing

他業界から学ぶ戦略・戦術のヒント

旅行・観光業以外の業界のマーケティング事例や調査データから、PDCAサイクルを実現するヒントを探る

VOL. 11

「結果にコミット」を端的に示したRIZAPのCMに込められた想いとは

フィットネスジムの中でも後発といえる2012年の誕生ながら瞬く間に会員数を増やしたRIZAP。一気に知名度を上げたのは、ビフォーアフターが衝撃的なあのCMだろう。CMに込められた想いを探るとともに、ジム以外にも事業を拡大している今後の展開を見ていきたい。

メッセージは簡潔なほど強烈な印象が胸に刻まれる

2012年に誕生したパーソナルトレーニングジム・RIZAPは18年9月時点で会員数が累計12万人を突破。グループ全体の売上収益は6期連続、営業利益は5期連続で増益と勢いに乗っている。他のフィットネスジムとの違いは「痩せる」効果を明確に打ち出している点だろう。その象徴が、たるんだお腹が引き締まった体へと変化するビフォーアフターCMだ。同シリーズのCMは2013年に一般会員をモデルにして放映を開始。元プロボクサー・赤井英和氏を起用した2015年のタレントCM第1弾は大反響を呼び、問い合わせ電話や会員数も急増した。

RIZAPは当初、富裕層の男性を主要ターゲットにしていた。当時の広告手法はというと、「1号店（東京都渋谷区・神宮前店）周辺の住宅への折込チラシが中心でした」と広報担当・神谷尚江さん。

「弊社は健康食品の通販から始まったため、通販のノウハウを応用。デザインや内容が異なるチラシごとに問い合わせ電話の番号も変えて配布し、反響が多かったチラシを大々的に展開していました」。

そうしてじわじわと獲得した会員は、予想に反して女性が多かった。

「これは女性のほうが美意識の高い方が多いためでしょう。女性はブランドバッグを買うか、RIZAPに通うかを同列にして迷います。見た目に影響するものという点では一緒だと考えるんです」。

現在も男女比は女性が多いものの、CMをはじめとしたさまざまな対策によって、男女共に会員数を増やし続けている。

さて、あのCMはどんな点に注意して制作されたのであろう？

「チラシや雑誌広告ならば特徴や仕組みまで説明できますが、短いCMでは言及しきれません。そこでRIZAPに通うとどうなれるか、シンプルに伝えることに注力しています」。

そして、RIZAPのウェブサイトでは内容まで紹介し、興味を持ってウェブにアクセスした人の疑問点をフォローしている。

ビフォーアフターの比較広告はダイエットや化粧品では昔からおなじみではある。それでもなおRIZAPのCMが消費者に衝撃を与えた理由は、誰もが知るタレントが、劇的な変貌を遂げた姿を映像でわかりやすく示したからだろう。偽りのない「結果」を見せることで「自分もああなりたい」と思わせる。RIZAPグループの企業理念は〝「人は変われる。」を証明する〟だが、まさに「変われるんだ」ということがCMからひしひしと伝わる。同時に、結果へと導いたRIZAPに対する信頼感も消費者に醸成されていく。シンプルな作りのCMだが効果は絶大。ただし、「結果」にごまかしがあっては信頼が失われるばかり。商品に自信があってこそ成り立つ手法だろう。

現在、RIZAPではパーソナルトレーニングジムだけでなくゴルフや英会話など事業を拡大中。一見、無関係に見えるが共通項がある。

「いずれも2〜3カ月で〝変わった自分と出会える〟点は同じです。一人では難しくても、トレーナーと一緒にがんばることで変われる。その経験を様々な形で提供していきたいと思っています」。

●取材協力

RIZAPグループ株式会社
グループ管理本部
コーポレート
コミュニケーション部
広報ユニット
神谷尚江さん

パーソナルトレーニングジム「RIZAP」を主軸に、美容・ヘルスケア事業など多分野の事業を展開。神谷さんはRIZAPグループ㈱の企業広報を担当。

拡大していくRIZAP事業

現在は様々な分野に進出。ゴルフ、英会話、料理のパーソナルトレーニングに加え、暗闇で音楽に合わせてトレーニングを行う女性向けマッスルダイエットスタジオ「EXPA」も誕生。こちらは受講形式がグループ制のためマンツーマンで完全個室制のRIZAPよりも安価に体験できる。

また、単発セミナーと3カ月間の出張型トレーニングを用意した法人向け健康プログラムや、住民の健康増進を目的にした自治体向け健康増進プログラムも始動。労働者や住民の高齢化が進むなか、健康管理や予防医学の観点から増加するトレーニング需要に応えている。

RIZAP GOLF
2016年1月～





RIZAP ENGLISH
2016年7月～

自治体向け健康増進プログラム
2017年3月～





法人向け健康プログラム
2017年5月～

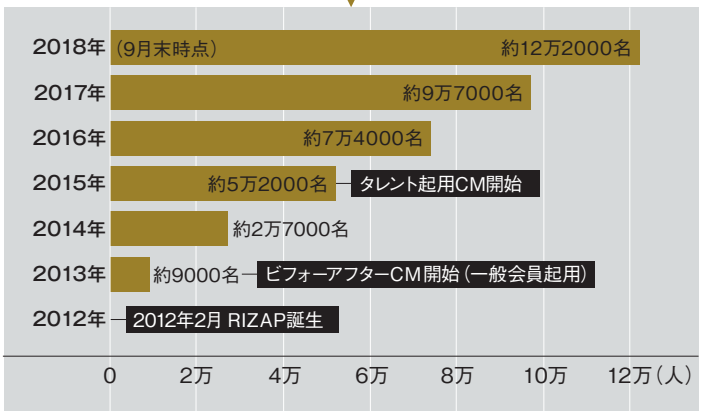
マッスルダイエットスタジオEXPA
2017年11月～



RIZAPボディメイク会員数（累計）

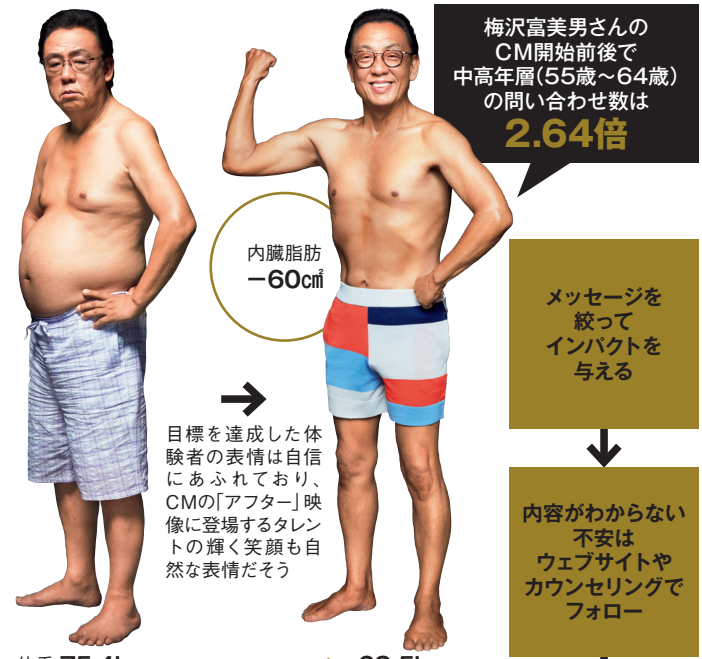
2カ月間（全16回）を基本コースとするパーソナルトレーニングの会員数は順調に伸びている。現在は国内125店舗を展開し、男性4割・女性6割の構成比。性別ごとの内訳は男性は30代と40代が、女性は20代・30代・40代がメインを占める。

基本コース（2カ月間・全16回）29万8000円＋税 ※入会金5万円＋税



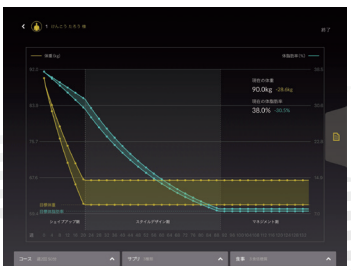
ビフォーアフターCM

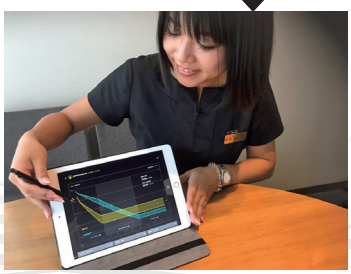
タレント起用CMは第1弾の赤井英和さん以降も続々と制作。中高年層の開拓に向けて起用した梅沢富美男さんバージョンも大きな反響を呼んだ。タレントの選定基準は「好感度」はもちろん、結果を出すために「本人のやる気」も重視。



メッセージを絞ってインパクトを与える

内容がわからない不安はウェブサイトやカウンセリングでフォロー





具体的な内容についてはウェブサイトやカウンセリングで伝えて消費者の不安を取り除く。カウンセリングでは理想体型になるために必要な体脂肪を落とすペースなどのシミュレーションを行う

価値と感動を生み出す人に
インタビュー

マエストロの肖像 45

全国各地の学校で今、子供たちが情熱を傾ける「民謡」がある。
『ソーラン節』はなぜ再び愛されるようになったのか？ 「唄」を次代へつなぐことに生涯をかけた人の物語。

写真＝佐藤兼永

地域の「生活の言葉」としての民謡を新しい世代につなぐ伝承者

民謡歌手
伊藤多喜雄



「民謡や方言、郷土の味なんてものは、誰かが先頭に立って魅せていかないと簡単に消えてしまうんです。狭い世界に閉じ込めていてはいけない。」

伝えるために選んだ「掛け合う」スタイル

今や全国の学校行事で踊られている『南中ソーラン』。北海道の民謡『ソーラン節』をアレンジしたこの曲の生みの親が伊藤氏だ。

苫小牧の漁師の家に生まれ、船で働く父の姿を見て唄を覚えた。

「エンジンなんてない、櫓で漕ぐ船です。だからこそ、肉体を動かすことの一部として声が出て、唄になる。天気のこと、家族のこと、ご近所のこと……唄は即興で重ねた生活の言葉であり、自分にとっては『民謡』というジャンルですらありませんでした」

その後民謡歌手を志して学ぶうち、自分の知る唄の多くが、日本海や瀬戸内の漁師が入植し、漁法とともに伝えたものであるとわかってきた。その唄はどこから来たもので、誰が歌っていたのか？知りたいと考えた伊藤氏は、日本各地に「唄さがし」の旅に出た。

「相手はだいたいお年寄りだから、耳も遠いし物忘れも酷くて（笑）、約束したのに出かけちゃってたなんてこともしょっちゅうでね」

そんな交流を通じて、伊藤氏は

「反応しあう」ことに目覚める。

「こちらの唄が上手いと相手も反応して『負けてられない』と燃えてくれるんです。そうやって地域で受け取ったものを人に伝えていくために、舞台でも『反応』を生みたいと思いました」

民謡歌手ながらバンドを組み、ライブハウスを活動の場に選んだのも聴き手と「掛け合う」ためだ。

「楽しい唄も、紋付袴姿で下を向いて演奏していては伝わらない。子供たちが興味を持つ機会もなければ、民謡はなくなってしまう。町の中に潜在していないと、音楽の意味がないんです」

停滞し荒れた学校で唄が子供たちを救った

アップテンポで掛け合いの多い『南中ソーラン』も、そうした活動の中から生まれた。当初は『TAKiOのソーラン節』だった曲名が『南中ソーラン』と呼ばれるようになったのは、稚内南中学校との交流による。80年代、200海里問題による漁港の停滞で町が経済的に衰え、その中で校内暴力に荒れていた中学校が、生徒たちが『ソーラン節』を踊り、全国大会を目指すことで立ち直っていったのだ。生徒たちが楽しみながら取り組むようになったのも、若者にもなじみやすいリズムの『TAKiOのソーラン節』だったから。練習のために、伊藤氏も稚内に通い詰めた。

「唄で伝えることは、言葉よりは難しくないですよね。とにかく一生懸命歌え！踊れ！というだけでいい。あとは僕のような1人の人間がしつこく関わることが必要だったんだと思います。なぜそこまでやれたかといえば、自分も『浜の子』だったからかもしれませんね。自分の浜より規模も大きく、裕福だったはずの稚内の浜の子たちが、自分たちのせいでなく、地域が変わり、家族が変わって荒廃していくのが堪らなかったんです」



自らは民謡をアレンジして演じるが、民謡界が培ってきた「型」を否定するわけではない。「カッコいいんだからどんどん外に出せばいいんですよ！」

自分たちの地域の文化をよいと思うなら外に出せ！

今は幼稚園から大学まで、さまざまな子供や若者たちのところに公演に訪れる伊藤氏。『南中ソーラン』を踊った経験のある子供たちが成長し、新たに伊藤氏の唄に興味を持ってくれているそうだ。メディアの世界にもソーラン節を踊れる人は増え始めていて、収録などの際、曲のイントロが流れると踊り出す若いスタッフもいるほどだという。

「僕はたまたま民謡だけど、方言でも郷土の味でも何でもいいから、誰か外に向かって『いいだろう』と魅せつける人がもう少しいるといいなと思うんです。自分たちの世界の中で守っているだけではダメ。言葉でしゃべっているだけでもダメ。そうやって外に出していかないと、地域の生活文化なんて簡単に消えてしまうんです。外に出せば誰かが何かを加えて生かしてくれる。自分がよいと思っているのに狭い世界に閉じ込めて『どうせオレらなんて』と嘆いているなんて、こんなもったいないことはありませんよ！」



1950年北海道生まれ。漁村で育ち、集団就職で上京後に歌手を志す。『紅白歌合戦』や『FUJI ROCK FESTEVAL』にも出演、現在は唄を通じて全国の町おこしにも携わる

アップテンポな曲調で若者の心を捉えた『南中ソーラン』

『南中ソーラン』は、北海道民謡であるソーラン節をアップテンポなロック調にアレンジした作品。稚内市立稚内南中学校では学校行事として伝統的なソーラン節を踊っていたが、この曲に切り替えたことで生徒が楽しんで取り組み始め、学校再生の様子はTV番組としても放送された。その後ドラマ『3年B組金八先生』に取り入れられて全国的に広まり、今は全国の学校等で運動会や文化祭の定番演目となっている。



新しい世代に愛されている『南中ソーラン節』。伊藤氏が東日本大震災の被災地、岩手県の野田村に炊き出しに訪れた際には、地元の中学生が踊りを披露してくれた

from Local
世界に誇る
まち・むら
のしごと

中世ヨーロッパの王侯貴族も魅了したニッポンの漆と漆文化を未来へつなげるために

「うるしびと」を育てる国産漆の最後の砦・浄法寺

岩手県二戸市浄法寺町

15世紀～17世紀の大航海時代、イエズス会宣教師らによってヨーロッパにもたらされた漆器は、王国貴族をはじめとする上流階級の人々を虜にし、マリー・アントワネットや母・マリア・テレジアが蒔絵や螺鈿を施した漆工芸品をコレクションしていたことはよく知られるところだ。

日本では古くから人々の暮らしに漆が使われてきたと考えられ、北海道函館市の遺跡からは、世界最古である約9000年前の漆器が発掘されている。漆の原料となるウルシの木は東南アジアの広範囲に生育しているが、地域により性質が異なり、国産のものはウルシオールと呼ばれる成分比率が高く良質で、何層にも塗り重ねることにより、薄く・硬く・透明度の高い皮膜を形成するのが特長だ。その品質の高さから、中尊寺金色堂や日光東照宮など国宝や文化財の修復には国産漆が用いられ、金閣寺の昭和大修復には約1・5トンの浄法寺産漆が使われた。また、海外の美術館に収蔵されている美術品の修復の際も、日本の漆が選ばれる例が少なくない。

日本の美術工芸とは切っても切り離せない漆だが、現在、国内で流通する漆の97％は主として中国などからの輸入に頼り、国産漆はわずか3％。そのほとんどは岩手県浄法寺で産出される漆である。日本が世界に誇る漆文化を支える漆が日本から無くなりつつある。後のない現実を背景に、2017年、文化庁は国産漆の需要拡大の通達を出し、「国産漆の最後の砦」と呼ばれる浄法寺がある二戸市でも、2016年から「うるしびと」の育成に取り組みはじめた。地域おこし協力隊として全国から集まった新たな「うるしびと」は現在6人。「漆掻き」という、明確な目的を示した活動を通して習得した技術を携えた彼らが、浄法寺や、日本に残された数少ない漆産地で漆文化を継承してくれることに期待したい。



「塗師」の手で、木地に漆を塗っては乾かしを繰り返し、何層にも塗り重ねて作られる浄法寺漆器（写真／「滴生舎」）



ウルシの木にかき傷をつけ、傷口からにじみ出る樹液をヘラですくい取る「漆掻き」。「辺」と呼ばれる掻き傷1本からスプーン約1杯、1本の木からはコップ約1杯ほどの漆を集める、気の遠くなるような作業だ。漆掻きに使う道具は、日本でただ1軒、隣接する青森県田子町で営む鍛冶屋で作られている





浄法寺町で生産された漆だけを塗り重ねた「滴生舎」の漆器。出来たては漆本来のマットな質感だが、時間をかけ使い込むうちに、なめらかな光沢を帯びてくる

岩手県二戸市 漆産業課
岩手県二戸市浄法寺町下前田37-4 浄法寺総合支所
☎0195-38-2211
https://www.city.ninohe.lg.jp/

滴生舎（てきせいしゃ）
岩手県二戸市浄法寺町御山中前田23-6
☎0195-38-2511
http://urushi-joboji.com/



二戸市：人口27,611人（平成27年国勢調査による）

編集後記

変えられるのは、「自分と未来」。自分が変わり、それにより周りが変わり、そして結果が変わる。それを地域で、日本レベルで起こせないかを科学しているのがコクリ！研究です。地域の未来を観光で築いていくために、負の部分の「地域力学」を壊すことが重要です。出る杭を打つ、ハシゴを外す、エゴ、諦め、失望、面倒、などという内面の想い。これらを打ち消し、未来に向けて共創＝コ・クリエーションしていく状態を創ることが大切です。今回は、地域と世界を進化させる「社会変容技法」を取り上げました。やや難解な部分もありますが、このメソッドから学び、ご自身のプロジェクトに少しでも活かしてもらえたら嬉しく思います。

編集人　沢登次彦

とーりまかし54号
2018年12月発行

発行
じゃらんリサーチセンター
〒100-6640
東京都千代田区丸の内 1-9-2
グラントウキョウサウスタワー
株式会社リクルートライフスタイル

発行人・編集人
沢登次彦

デスク
森戸香奈子

編集
米川青馬、木村康子、岩崎美也子、大西智与、中野智子、田中香和子、田村麻貴

デザイン
黒川聡司デザイン事務所

表紙イラスト
小林マキ

印刷・製本
凸版印刷株式会社
Printed in Japan

©RECRUIT 2018
本誌記事の無断転載を
固く禁じます。

じゃらんリサーチセンター

私たちが目指すもの。

未来に繋がる「ありたい姿」「目指すべき姿」を地域の皆様と共に作り上げること、
それが私たちの使命です。



JRCのメソッド 1

みつける

今ある魅力の再発見



JRCのメソッド 2

そだてる

新しい魅力の形成



JRCのメソッド 3

つたえる

伝達力の強化

私たちの活動領域

観光に関する研究

シンクタンクからアクトタンクへ。
地域と共に実証実験を多数実施しています。

○調査・分析
じゃらん宿泊旅行調査、インバウンド調査、ご当地調査など

○実証実験
調査・分析から導いた解決策を実際の地域で実証実験し、具体的な手法や需要の開発にチャレンジしています

観光・地域振興支援

観光に関する様々な事業を
お任せいただいております。

○調査・分析　○PR・誘客・周遊促進
○計画策定など　○ワークショップ・研修
資源を再発見or新たにみつける→そだてる
→情報発信→誘客→振り返り→次へ、
というサイクルを回しながら、
地域の方々と共に地域の新しい価値創造を行っていきます

情報発信

研究で得た知見を広く発信していきます。

○『とーりまかし』 ○観光振興セミナー、調査報告会など
○WEBサイト、Facebook、メールマガジンなど

観光業界、そして地域経済のさらなる発展のために、
JRC（じゃらんリサーチセンター）が得た知見や提案を
余すことなく広く世の中に発信していきます



http://jrc.jalan.net/
じゃらんリサーチセンター　検索



公式Facebookからも
情報配信中



変わる地域の、力になります。

じゃらんリサーチセンター

tel 03-6835-6250（代表・平日10～18時）　fax 03-6834-8628

弊誌へのご意見・ご感想、JRCへのご要望等、ぜひお寄せください

心を動かす、日本を元気にする
観光・レジャーのプロデューサー応援情報誌
とーりまかし
vol. 54



とーりまかし

【とーりまかし】
terima kasih
インドネシア語で「ありがとう」の意。

2018年12月号